

大阪薬科大学報



Osaka University of Pharmaceutical Sciences

2008年（平成20年）6月30日発行

目次

新学舎建設と大学の将来構想	理事長	矢内原 千鶴子	1
学長就任にあたって	学長	千熊 正彦	3
関西大学との学術交流協定	教務部長	辻坊 裕	4
大阪薬科大学とともに50年	前学長	栗原 拓史	5
栗原前学長ご退職に寄せて	薬品合成化学研究室 教授	春沢 信哉	5
退職にあたって（御礼）		坂田 勝治	6
坂田教授ご退職に寄せて	言語文化学グループ 教授	楠瀬 健昭	6
池田教授ご退職に寄せて	生化学研究室 准教授	井上 晴嗣	7
阿部准教授ご退職に寄せて	環境医療学グループ 教授	松島 哲久	8
平成19年度後期授業・実習評価アンケート	教務部長	辻坊 裕	9
平成19年度 進路・就職状況について	キャリアサポート部長	馬場 きみ江	11
第93回薬剤師国家試験の結果と今後の方針	薬剤師国家試験対策委員会 委員長	掛見 正郎	13
生体高分子用X線回折装置	研究委員長	松村 靖夫	15
平成20年度公開教育講座	公開教育講座委員長	掛見 正郎	16
平成20年度市民講座	市民講座委員長	天野 富美夫	16
学生相談室だより	学生相談室相談員	岡 鈴佳	17
平成19年度学校法人決算及び平成20年度学校法人予算	事務局長	田部 信重	18
各課だより			22
教員研究業績（2007年）			34
薬用植物の紹介（カリン）	薬用植物園長	馬場 きみ江	

新学舎建設と大学の将来構想

理事長 矢内原 千鶴子

新しい薬学教育制度のもとで最初に入学した学生が3年次に進級し、いよいよ新薬学教育の真価が問われる教育課程の段階に入ってきました。実践臨床薬剤師養成課程ともいえる6年制薬学科において義務づけられた薬局・病院長期実務実習は、新制度の中でも最重要課題の一つとされるものであることはいうまでもなく、その実施に向けて関係者の多大な努力がなされているところがあります。長期とはいえ限られた時間の中でその実を挙げるためには大学内での実務実習事前学習の充実が必須であり、実務実習現場のいくつかの主要な部分に擬した新しい施設・設備の設置が必要となりました。既にほぼ全ての既設薬系大学では、その新增設が実施されています。本学においても、薬学教育2年延長に伴う収容定員増への対応、学生生活のアメニティの向上と充実を目的としたものも含めた新学舎の建設が本年1月より始まりました。建築面積3,391㎡、地下1階地上3階建延床面積7,455㎡の規模であり、1階には学生ラウンジ（食堂）と講堂、3階には講義室・学生自習室・セミナー室が設置されます。新学舎の特色は主として2階部分にあり、ここには実務実習事前学習を主な目的とする医療・臨床薬学実習施設が集中し、これらはまた共用試験の場ともなります。事前学習、共用試験関連施設・設備を1フロアーにまとめ、幅広い廊下のスペースと相俟って充実した教育が効率的に行われるよう計画、設計されています。また、可能な限り全て透明ガラス壁とし室内が廊下から見通せるようになっています。特にOSCEがこのフロ



新学舎完成予想図

アーで完結できるよう計画されており、その円滑な進行とともに受験生、評価者、教員の負担の軽減にも繋がるものと期待しています。講義室への新設備の設置、学生の自主学習を支援する自習室の拡充なども含まれており、また、駐車場、駐輪場の増設も同時に進んでいます。竣工は来年2月～3月と予定されています。こうした新学舎が大阪薬科大学の目指す新しい個性的な薬学教育、薬剤師養成教育の推進と確立に大きな役割を果たすことはいうまでもなく、さらには本学教育関係者の意識を新教育に向けて高揚し充実させるための重要な役割も果たすものと期待しています。



工事風景（H20.6.4現在）

本学は去る1月9日関西大学、大阪医科大学との間で、「3大学共同学部設置に関する協定」を締結しました。ただし、本制度（「共同学部・共同大学院」（仮称）制度）はいまだ法律上確立されたものではなく、実際に設置が実現するのは早くとも平成22年度と考えられています。唯、3大学がこうした協定を結ぶに至った背景には平成15年の関西大学と大阪医科大学の医工連携、平成16年の大阪医科大学と大阪薬科大学ならびに平成19年の関西大学と大阪薬科大学の学術交流協定等による3大学間の教育研究協力トライアングル体制の構築がありました。学生獲得が厳しい環境の中で大学は諸々の手段を講じて競って特色をアピールしています。大学間交流や連携もその一つとして、全国的に数限りない事例が見られるのが現状であります。しかし、そのうちのどれだけが実質的な効果を上げているのでしょうか。単なるアピール

におわることなく、実効性のあるもの、何よりも学生の教育の質的向上に資するに足るものであることを目指しこうした関係の強化に努めなければならないと考えます。100年を越える歴史と伝統のもとで大阪薬科大学が築き上げてきた薬学教育の基盤はゆるぎないものであることは疑いの余地のないところであります。しかし時代の流れの中で薬学教育に対する社会の要請も大きく展開し、臨床にかかる実践的な能力を培うことがその主要な目的として学校教育法に掲げられるところとなりました。この目的を理想的な形で高度に具現化するためには遺憾ながら本学のような薬系単科大学の教育環境には限度があることを認めざるを得ません。現在検討が進んでいる大阪薬科大学と大阪医科大学の法人間の新しい関係の構築は大阪薬科大学の個性ある6年制課程（薬学科）ならびに新しい大学院博士課程の確立のために必須かつ喫緊の課題であると考えます。

しかしながら、こうした6年制教育課程の目的の明示や学生・父母による薬剤師免許取得の保証への要求の高

まりは過激な薬系大学間競争と相俟って、薬学学士課程教育の志向するところを単純規格化、偏狭化、硬直化に導き、本来あるべき大学としてより、むしろ職業学校化するのを憂慮しています。それは社会で働く薬剤師の能力のみならず人間としての質を左右しかねないといえましょう。そうした意味からも大阪医科大学のみならず、数多くの学部を擁し様々な分野で活躍する人材を輩出してきた関西大学との関係強化は、どのような形をとるにせよ、その多様性ゆえに本学学生の幅広い人間形成教育に与える影響には計り知れないものがあると考えます。いうまでもなく研究活動上の成果への期待も見逃せません。単なる連携とか交流ではなく、真に本学の教育・研究に実りをもたらすものとしての他大学との関係構築は決して容易に達成できるものではありませんが、将来の本学の教育、そして何よりもステークホルダーとしての本学学生にとって最も有益な形で進行することを切に願ひ、また努力しているところであります。



2階臨床薬学系教育実習施設



講堂

学長就任にあたって

学長 千熊 正彦



この度、平成20年6月1日付けで大阪薬科大学学長に任命されました。就任にあたりご挨拶申し上げます。

現在、キャンパスでは新教育課程の学生のための新学舎の建設が槌音高く進んでおります。戦後の新制大学への変革と並ぶ大きな教育改革が進行中の真っ只中で、伝統ある本学の学長に任命されましたことに責任の重さをひしひしと感じております。

私は助手として十数年勤務した基礎系研究室から京都大学結核胸部疾患研究所附属病院薬剤部に転出し、4年半ほど薬剤師として毎日調剤に明け暮れたのち、大阪薬科大学の分析化学教室に助教授として赴任いたしました。病院薬剤師として勤務したのは短い間でしたが、この間に私の人生観が変わったといっても過言ではありません。大学の研究室に居たのではとうてい経験することのできない多くのことを患者さんや医療関係者から学びました。大げさに言えば、生きるということは何なのかを考える機会を与えられたと思います。1人の患者さんを治療し社会復帰させることは、その家族や周りの多くの人を救うことにつながるのです。医療に関わる仕事の意義を痛感し、薬の効能の素晴らしさに感動しました。同時に、薬にはじまり薬に終わる薬剤師の責務の根底には患者のためにという視点が必要であることも学びました。

医療現場を経験して、薬剤師の専門性は基礎系化学を基盤とする生命科学の知識や技能に裏打ちされているところがあると強く感じました。化学構造をみて化合物の安定性、体内動態や薬理作用が推定できることは、医療の信頼性、安全性を担保するために必須の能力であり、薬剤師以外の他の職種の人々にはできないことなのです。基礎系学問分野の知識・技能をもちかつ実務に関するトレーニングを受けた、人間性豊かな卒業生を社会に送り出すことは大阪薬科大学の重要な使命であると考えています。高度医療や薬物治療の進展は速く、それらを理解するためには、揺るぎない基礎系学問分野の知識が基盤になると信じます。

私が大阪薬科大学に赴任した当時は、薬系大学では薬剤師の実務経験のある教員は非常に少なく、医師養成と

医学教育がほぼ同義であるのに対して薬剤師養成と薬学教育は乖離の程度が大きすぎるのではないかと、医療現場と大学間で人の交流が少な過ぎるのではないかと、などという印象をもっておりました。国民に信頼される薬剤師の養成および医療の高度化に対応した薬剤師の資質向上のためには、医療現場と教育・研究機関との連携、相互のフィードバックが必須であると思います。

20年前から抱いていた私の大学教育に関する違和感は、6年制教育課程および4年制教育課程とそれに続く大学院修士課程を並立した本学の新しい教育課程の完成により、大幅に改善されると期待し、またそうなるように努めたいと思います。

伝統を保つためには、たゆまぬ点検、評価を行い、必要とあれば革新する勇気をもつことが大切であると私は考えています。新教育課程を完成させることは別に本学独自の課題として、関西大学、大阪医科大学ならびに本学との間での三大学共同学部設置構想の協議が始まっております。いわゆる規制緩和にもとづく自主的な大学改革であり、これはまさに伝統ある本学の歴史に新しい一頁を加えることができるチャンスであると考えます。共同学部においてどのような人材をどのように養成するのが最も重要な課題でありましょう。そして本構想が大阪薬科大学にとって真に実り多いものになるようにするためには冷静な判断と進取の気概とが要求されると考えます。

新教育課程の完成、大学院構想の実現そして共同学部の設置などは、いずれも本学の発展にとって重要な課題ではありますが、教職員並びに関係者の皆様と十分議論したうえで、本学の発展にとって輝かしい歴史の出発点になるように、鋭意努めたいと考えています。私どもが経験したことのない課題だけに不透明な部分も多く大阪薬科大学学長としての責務は重大ではありますが、目の前にある課題をひとつひとつ解決するために考え、行動したいと思います。

本学関係者の皆様様の暖かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

関西大学との学術交流協定

教務部長 辻坊 裕

大阪薬科大学と関西大学は、相互の教育研究活動において連携し、学術交流を推進し、双方の発展と充実に寄与することを目的として「学術交流に関する協定」を締結し、平成19年12月10日に調印式が執り行われました。

今日、大学は教育、研究はもちろんのこと、社会貢献という社会的使命を担わなければなりません。そこで、さらに実質的な交流を深めるため、大阪薬科大学と関西大学がすでに学術交流協定を締結している大阪医科大学と3大学が相互に連携を図り、これまでの医工薬連携を充実させるとともに、より多面的な学術交流を推進すべく今回の学術交流協定の締結に至りました。協定締結の主な目的は、(1)共同研究の推進、(2)教員の相互交流、(3)大学院・学部学生の相互交流、(4)カリキュラムの相互提供(単位の相互認定及び双方向授業の実施を含む)、(5)学術情報及び資料の交換であります。

研究活動においては、互いの得意とする研究知識や技術を生かして、医工業に関連する研究を効率的に推進することが可能となります。教育においては、それぞれの大学が得意とする分野で、学部並びに大学院学生に高度な教養教育及び専門教育を提供することができます。さらに、医療機器や診断薬の開発など、これからの社会に不可欠な研究分野において、高度な能力を身に着けた人材を養成することも可能となります。

大阪薬科大学、大阪医科大学、関西大学は共に高槻市内に大学キャンパスがあり、これまでに地域に根ざした大学間の交流を推進して参りました。この度、3大学の学術交流の更なる発展を目指し、3大学共同学部を設置することになりました。これは文部科学省が新たに置く複数大学による共同学部設置制度に基づき、3大学の共同学部として設置するものです。2010年4月からの設置を目指し、21世紀のライフサイエンスを担う医学・工学・薬学を学際的に学んだ人材、かつ教養、心理、倫理などを兼ね備えた看認師の育成を目指して、大阪医科大学のキャンパス内に共同学部が設置される予定です。

教育研究体制としては共同学部の利点を活かし、学生・教員双方において、流動性の高いものとし、また学部完成後のできるだけ早い時期に、共同大学院または連合大学院等の設置を構想します。より高度な専門教育・研究のため、固有の装置・設備の他、3大学の既存の教育・研究施設も活用し、融合した教育研究体制をとる予定です。これにより、3大学の更なる発展が期待されます。

ここで、関西大学について簡単に紹介させていただきます。関西大学は、1886年(明治19年)、大阪西区京町堀に関西法律学校を前身とし、2006年(平成18年)に創立120周年を迎えた歴史と伝統のある総合大学であります。学部は、法学部、文学部、経済学部、商学部、社会学部、政策創造学部、総合情報学部、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学の10学部から構成されています。また、先端科学技術を推進し、人類の福祉の向上と地球環境の保全に貢献することを目的とした研究機構として、先端科学技術推進機構があり、ここには、ハイテクリサーチセンター、産学連携研究センター、学術フロンティアセンター、医工薬連携センターが設置されています。平成19年5月1日現在、学生数は、学部27,209人、大学院2,084人、専任教員数629人、事務職員420人が在籍している活気にあふれた大学であります。

わが国において、先進的な診断・治療技術及び機器の開発を目指す医工連携は、すでに行われています、しかしながら、医学部、工学部、薬学部からなる医工薬連携は、本邦では初の試みであり、時代を先取りする教育・研究体制として大学、学会、及び社会から注目されているところであります。このような医工薬連携における大阪薬科大学の使命は、研究成果をはじめとする知的財産、及び人的資源、物的資源を積極的に活用することにあると考えています。大阪薬科大学、大阪医科大学、関西大学との学術交流により、社会的要請及び関心に幅広く対応できる教育・研究環境が整備されるものと思われれます。

大阪薬科大学とともに50年

前学長 栗原 拓史

昭和33年4月大阪薬科大学に入学、50年後の平成20年3月に大学を去ることになった。本学に奉職して41年、様々なことが走馬灯のごとく脳裏を駆巡る。斎藤徳男先生との出会いに始まり、結婚、子供が授かり、米国留学をし、子供が巣立って孫ができ、春沢君（現教授）に巡り合い、教育と研究に没頭し、教授となり、管理運営にも携わり、高槻移転の建設委員長を拝命し、学長事務取扱そして定年退職後に学長となり、不本意ながら任期途

中で学長辞任、多大なご迷惑をかけ、多くの方々の期待も裏切った。最後は不徳の致すところであるが、母校に勤務でき「ああ！終わった、本当にいい経験をしたなー」と思うのみである。そして大勢の方々の世話になり助けていただいたお陰で今がある。感謝！幸い健康で妻も達者、体を鍛え直しながら第二の人生を模索しつつ、後は我が母校の健全な発展を祈るのみである。

栗原前学長ご退職に寄せて

薬品合成化学研究室 教授 春沢 信哉

栗原拓史先生は、平成20年3月31日をもって学長を退任され、本学を去られました。

先生は、昭和42年に本学助手として着任され、講師、助教授を経て昭和58年に教授になられました。すぐに学生部長に就任された後は学内のほとんどの要職を歴任され、平成17年12月には学長になられました。先生はこのように41年間もの長きにわたり本学にご尽力下さいました。

先生は、含窒素複素環化合物やリン、イオウ原子を活用した化合物の合成と反応について精力的に研究を行われ、発表論文は240編に達します。中でも麦角アルカロイドのリゼルギン酸や強力な抗ウイルス作用をもつユーデイストミン誘導体の独創的合成法は、多くの合成研究の中でも秀逸のものです。また、私が少し手かけたものの留学によって進展出来なかった有機リン酸エステル合成化学への応用研究は、2年間の留学中に先生がほとんどご自身で完成され、後に総説として発表されました（有化化、46、1164、1988）。それから20年を経た昨年、東大のグループが世界的に供給不足が心配されているインフルエンザ治療薬、タミフルの化学合成に成功しましたが（Shibasaki *et al.*, *Org. Lett.*, 9, 259, 2007）、この合成の中心をなす連続するシアノリン酸エステルの転位反応は、先生がその時期にまさに開発された反応です。このように先生の学問的業績は、時代を超え生き続けるものが多くあります。さらに、学会活動でも、*Chem. Pharm. Bull.* のEditorや学外での講演等も多く行われています。変わったところでは、

東京で地下鉄サリン事件が起こった翌日、急遽専門家としてテレビの情報番組に出演されました。先生のお話が明快で好評なためテレビ局から引き続き出演依頼があり、教務部長でお忙しい中、困って電話でお断りになっている様子をよく覚えております。

私事ではありますが、いつも先生に感謝していることがあります。私が、3年生の頃、有機化学の基本的な考え方がなかなか判らず何度も先生に質問に通った時期がありました。先生は大変忙しい中でも、時間をかけてお教え下さった事が今の私の有機化学の基礎知識になっております。このように先生の学生に対する広く深い愛情によって、門下生からは多くの優秀な人材を輩出し、それぞれが多面で活躍しています。

先生はまた多彩な趣味をお持ちで、若い頃から野球、テニス、ゴルフとスポーツは万能です。さらに、カメラ、園芸、畑仕事、山登りと多くの事に興味を持っておられます。中でも、金剛山登山は実に約130回で、山頂の金剛山葛木神社に100回目を示す札が上がっています。

最後に、先生が大学を去られた今、私達は感謝の気持ちと共に大変寂しく思っております。しかし、先生にはこれから多くの楽しみが広がっていると思います。また、先生と奥様はとても仲が良く、またお孫様との時間を大変楽しみになさっている事をよく存じております。どうか奥様、ご家族様と共にご健康で充実した毎日を過ごして下さることを深くお祈り申し上げる次第です。



平成10年11月、
第24回反応と合成の進歩シンポジウム（千葉）にて



平成11年9月、高槻京都ホテルにて



退職にあたって（御礼）

坂田 勝治

昭和57年に英語担当者として本学に奉職して以来、26年の月日が経過し、去る3月末に退職致しました。この間何とか無事に勤められましたのは、偏に教員・事務職員の皆様方のお力添えとご寛容の賜物とっております。厚く御礼申し上げます。

現在、語学教育は複雑な状況下にあります。この点で歴史的には、かつて国際人として活躍し、新渡戸稲造と並んで「英語の達人」といわれた内村鑑三が、早くも明治32年に、『吾人之を語学と称するも言語は素是れ習慣にして学術にあらず——外国語研究の法は単に実習の一事に止まる』と、語学の「実習」性を喝破しております。私は基本的にこの考え方に敬服する者ですが、異文化の理解は簡単にはできません。鑑三がこの確信に至る迄には、その前提として、英語漬けの莫大な時間と厳しい訓練があったことを、今の学生はわかってくれるのでしょ

うか。

今振り返ってみますと、42年間に亘る教師生活の中で、最初は高校教員としてひたすら現場での教育に没頭でき、その後に大学での教育・研究の機会を得られたことは、両方の経験をすることができたという意味で、私にとっては誠に有難いことでした。本学で学生部や修学指導委員会などの仕事を担当していた時も、高校での生徒とのふれあいを思い出したものです。

『帰りなん、いざ。田圃まさに蕪れんとす』。これは、官職を辞して故郷に帰る時、陶淵明が『帰去来の辞』で述べた漢文の一節です。昔、軽い気持でこれを読んだのですが、今その心境が少し解るような気がします。教師生活のこの42年間、自分の中身以上に喋り過ぎた感が出てなりません。今は枯渇した蓄電池に充電する時です。昔学んだNew Hampshire, Georgetown, UCLAなどの大学をもう一度訪れて、新たに学び直したい、というのが現在の夢です。

坂田教授ご退職に寄せて

言語文化学グループ 教授 楠瀬 健昭

坂田勝治先生には、平成18年3月31日をもって定年をむかえられ、ひき続き囑託として二年間勤務されましたが、平成20年3月31日をもって本学を退職されました。

坂田先生は、京都大学文学部ご卒業後、大阪府公立学校教員を経て、昭和57年4月に専任講師（英語担当）として着任、昭和60年には助教授、平成2年には教授に昇任されました。本学を3月に退職されるまで、ご専門のアメリカ文学研究、本学における英語教育に情熱を注いでこられました。また、学生部長の要職を二度にわたって勤められ、修学指導委員長、ESS、コーラス部の顧問と、学生のおよび指導者、相談相手として、学生諸君のために力を尽くしてこられました。

先生の研究業績の一端は、教養論叢『ばいであ』誌上に発表された論文などに見られます。Saul Bellowの小説*Dangling Man*を三回にわたり詳細に論じた 'The Dualistic Perspectives'、Coleridgeの詩論を取り上げた 'Imagination and External Factors' などに加

え、「Chemistry」の語源と用法」、さらには、アメリカ人教授との俳句を翻訳する試みが発端となった「俳句の翻訳—その問題点をめぐって」など、様々な領域に関心を持たれていたことをうかがい知ることができます。また、日本の代表的な英和辞典である『リーダーズ英和辞典』、『医学英和辞典』（ともに研究社）の編纂にも協力されました。

大学設置基準大綱化後、本学の英語教育も改革を重ねてきましたが、クラスサイズを縮小、ネイティブ・スピーカーを非常勤講師として招請、TOEICテストを学内で実施するなど、学生の英語力向上のための方策に尽くしてこられただけでなく、講義においては、たえず教材に工夫をこらし、教授法にも心を配られ、時には厳しく、時には優しく、学生に接してこられました。

最後になりましたが、26年の長きにわたり、本学にご尽力いただいたことに感謝申し上げますとともに、坂田先生の今後のご健勝、ご活躍を祈念いたします。

池田教授ご退職に寄せて

生化学研究室 准教授 井上 晴嗣

池田潔先生には、平成20年3月31日をもって定年退職されました。

池田先生は、昭和38年京都大学薬学部をご卒業後、昭和41年同大学院博士課程を中退、関西学院大学理学部助手、北海道大学薬学部助手、大阪大学理学部助手・講師を経て、昭和59年4月大阪薬科大学第1生化学教室教授にご着任され、以来24年間にわたって本学の教育・研究にご尽力されるとともに、研究委員長、図書館長、教務部長、大学院小委員長、学内理事・評議員などの要職をご歴任され、本学の管理運営においても重要な役割を果たされました。対外的には、日本生化学会、日本薬学会近畿支部、応用酵素協会などの評議員としてご活躍されるとともに、平成11年5月には会長として第46回日本生化学会近畿支部例会を本学で開催され、昨年10月に本学で開催された第57回日本薬学会近畿支部総会・大会では本学幹事として運営を取り仕切られました。

先生は教育や研究に情熱的に取り組まれ、生化学の講

義に関しては、学生諸君の理解を深めるために、100ページにもわたる問題集を作成され、毎回の授業時に配布されていました。松原学舎の頃には大学の近くに下宿されていたこともあり、研究室ではお酒を飲みながら、研究のことは言うまでもなく、学生気質の変化や、大学の研究教育体制、国内外の政治情勢などについて、夜遅くまで熱く語っておられました。本学が高槻市に移転してからは研究室で飲まれることはほとんどなくなりましたが、摂津富田駅前の居酒屋で親しい先生方と激論を交わされているという噂は何度も耳にしました。教授会や拡大教授会では、オピニオンリーダーとして、筋の通った、ぶれのない、公正な発言が多く、白熱した議論の際には一際存在感が大きかったように思います。

私は、先生のご着任2年目から助手として採用され、以来23年間ずっと一緒に仕事をさせていただきました。先生がご退職されて、改めて先生の存在感の大きさを実感しています。池田潔先生の今後のご健勝ならびに益々のご活躍をお祈りいたします。



2000年夏 生化学教室同窓会

阿部准教授ご退職に寄せて

環境医療学グループ 教授 松島 哲久

阿部功先生には、平成20年3月31日をもって定年退職されました。

先生は、昭和46年3月に京都大学経済研究科博士課程後期を単位取得されて、同年4月に「経済学」および「英語」担当の講師として本学に着任されました。昭和61年4月には助教授に昇任され、平成19年4月からは准教授として学生の指導にあたり、37年の長きにわたり教養教育・薬学教育に心血を注がれました。

先生はご着任以来、ご専門であられる基礎教育科目の「経済学」の講義を多年にわたって担当されました。この講義はカリキュラムの諸改正に伴い、経済学を広く学際的に都市・環境・医療に関する理論と結合させて「人間と文化4d（人間と都市）」、「社会薬学2」として発展的に引き継がれました。また、「英語」は一貫して定年になられるまで担当されました。

本学のカリキュラム改正において先生は、基礎教育科目の充実化、総合化に関し、中心的な役割を果たされました。先生は本学の将来を的確に見通しながら、そのあるべき形姿をしっかりと見据え、当時としては画期的で先進的な理念を呈示、提言されました。その第1は「特論」というコンセプトを提起されて、教養科目の大学における必然性を明確にされたことです。それによって、個別教養科目と人文・社会の諸学を総合する講座との連結の可能性が切り開かれました。それは同時に、薬学専門科目領域との総合化も可能にするものであって、わが国の大学においては先駆的な試みであったと高く評価されます。次に、これと基礎ゼミ、洋書講読ゼミと重ね合わせた教育によって、基礎教育が語学教育に裏打ちされておこなわれるという画期的な試みを実現することになりました。当時このような試みを呈示し実現していった大学は皆無に近く、本学における教養教育および社会薬学的分野の教育において果たされた先生の役割は高く評

価されるもので、先生のご功績は、今後いっそう輝きを増すことと確信しています。

また先生の忘れてはならない業績として、昭和52年の教養論叢「ばいであ」の創刊があります。これは教養教育・研究を大学教育・研究の重要な一部として位置づけることを明示したもので、このような紀要に準ずる学術雑誌を持つことによって、以後、本学の教養教育はその質の高さを自ら保持することを要求されることになりました。

先生の研究面では、経済学の学際的展開の一環として、日本計画行政学会、環境経済・政策学会での活躍が挙げられます。とりわけ、都市論を環境経済学と結合して論述されているいくつかの論文は他に類を見ない独創的なもので、21世紀における経済学の具体的展開を可能にするものとして高く評価されます。

また学内では、学生部委員、教務部委員、入試出題委員、人権委員などを務められ、よくその職責を果たされ、学生のよき理解者としてその指導にあたりました。とりわけ人権委員として、先生は終始一貫して人権擁護の立場を貫かれ、人権侵害に当たると判断される行為を鋭く的確に指摘されました。全存在をかけて勇気あるご発言をなさる先生のその変わらぬ一貫したご姿勢こそ、私たちが誇りとし守り行くべき大学人の孤高の姿ではないでしょうか。その何ものにもかえられない大切さを、このたび今一度身をもって教えていただきましたことに、倫理の教師として また一人の人間として、深く感謝いたしております。

最後になりましたが、長年にわたって本学の教育にご尽力いただきましたことに感謝を申し上げますとともに、先生の今後の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしております。



(ご退職された先生の離任の辞と送別の辞を執筆依頼し、いただいた原稿をそのまま掲載しています。)

平成19年度後期授業・実習評価アンケートの結果を報告いたします。「大阪薬科大学学報」55、56号ですでお知らせしましたように、教務部委員会において、授業評価アンケートの回収率の改善策について検討して参りました。前回実施しました授業評価アンケートの回収率は、全学年では61.4%でありましたが、今回の授業評価アンケートの回収率は、残念ながら全学年で59.0%であり、前回と同様に学年進行に伴い低下する傾向を示しました（1年次生、69.4%；2年次生、58.3%；3年次生、47.9%）。特に、1年次生における回収率の顕著な低下（前期82.8%）が今回の回収率の低下の一因であると考えられます。4年次後期は、薬学総合演習および特別実習2が開講されていますが、授業評価アンケートは実施しておりません。一方、実習・演習評価アンケートの回収率は、1年次生92.8%、2年次生90.1%、3年次生88.7%であり、授業評価アンケートの回収率と比較して、非常に高い数値を示しました。授業評価アンケートと実習・演習評価アンケートの回収率の差は、学生の出席率やアンケート調査の実施時期ならびに方法によるものと思われる。また、授業評価アンケートを踏まえた結果を学生に十分にフィードバックされていないことが、アンケートの回収率の低下に繋がっているものと思われる。今後、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会におきまして、授業評価アンケートと実習・演習評価アンケートの内容、実施時期、実施方法などについて早急に検討されることを願っています。

次に、今回のアンケート結果においては、前回（平成19年度前期）と同様に、ほぼすべての項目で比較的高い数値が得られました。このうち、設問項目13（あなたはこの授業によく出席しましたか）は、いずれの学年

においても最も高い数値（全学年の平均4.61）であり、一方、設問項目17（あなた自身、授業を理解するよう努力していましたか）は最も低い数値（全学年の平均3.31）でした。この結果は平成19年度前期授業評価アンケート結果と全く同様の傾向でした。実習・演習評価アンケートにおいても同様の傾向が認められました。本学は出席制を採用していることから、出席率が高いことは当然であります。授業に漫然と臨んだ場合、学習効果は極めて低いものと思われる。このような対応では、知識が十分に身につかず、学年進行とともにますます授業が理解できないことになりかねません。特に、2年次生における設問項目17の数値が、他の学年より低いことが気になります。平成19年度における2年次生のうち、残念ながら34名の学生が留年しました。大学生活にも慣れ、若干気の緩みがあったのかもしれませんが、同時に基礎薬学科目、応用薬学科目、医療薬学科目の割合が、1年次開講科目と比較し、大幅に増加していることもその要因の一つに挙げられるものと考えています。学年進行とともに、目的意識を持って授業に臨み、理解が不十分である場合には、理解できるまで繰り返し勉強することが必要であると思います。学問に王道はありませんので、省エネ型の勉強から早く脱出することを切に望みます。繰り返し勉強することにより、社会から求められている問題解決能力の醸成に繋がるものと考えます。一方、教員は授業評価アンケート結果を真摯に受け止め、高い学習効果が期待できるように日々改善に努めるべきであるということに異論がないことと思います。

教務部委員会は教務課とともに、教職員と学生が互いの顔がよく見え、学生にとって満足できる学習環境を提供できるよう、更なる努力をしていく所存であります。今後とも、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成19年度後期授業評価アンケート集計

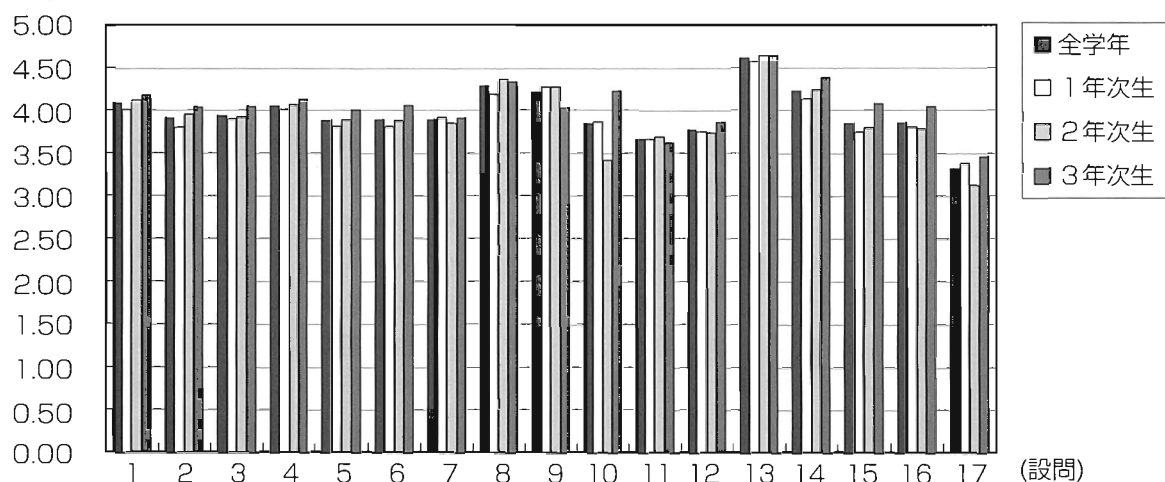
〔設問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか（板書等を使用しなかった場合は0を記入してください）
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
4. 授業は、「授業の内容」（シラバス）に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分に理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか（指定されていない場合は0を記入してください）
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか（休講がなかった場合は0を記入して下さい）
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください（5-非常に難しい、4-難しい、3-適切、2-簡単、1-簡単すぎる）
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください（5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない）
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）していましたか

	全学年	1年次生	2年次生	3年次生
延べ履修人数	10475名	3674名	3576名	3225名
延べ回答人数	6181名	2550名	2085名	1546名
回答率	59.0%	69.4%	58.3%	47.9%

回答は、5-そう思う（5ポイント）、4-どちらかといえばそう思う（4ポイント）、3-どちらともいえない（3ポイント）、2-あまりそうは思わない（2ポイント）、1-そうは思わない（1ポイント）から選択。但し、設問2、9、10については、0-該当しない（0ポイント）を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

(平均値)



全学年

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.09	37.6%	39.9%	17.1%	4.1%	1.2%	-	0.1%
2	3.91	29.6%	38.3%	22.6%	5.7%	1.5%	1.8%	0.4%
3	3.94	30.7%	39.4%	23.5%	5.2%	1.0%	-	0.2%
4	4.05	33.7%	39.8%	24.1%	1.4%	0.5%	-	0.5%
5	3.88	29.1%	38.9%	24.2%	6.1%	1.6%	-	0.2%
6	3.89	29.8%	37.0%	26.7%	4.8%	1.5%	-	0.3%
7	3.89	28.3%	37.4%	29.5%	3.6%	1.0%	-	0.2%
8	4.28	47.4%	36.3%	13.3%	2.1%	0.7%	-	0.3%
9	4.21	42.0%	28.4%	13.9%	2.7%	1.4%	11.3%	0.4%
10	3.84	7.5%	5.3%	6.7%	0.6%	0.9%	77.9%	1.0%
11	3.65	14.2%	38.8%	44.6%	1.5%	0.4%	-	0.5%
12	3.77	20.9%	41.5%	31.2%	4.6%	1.2%	-	0.5%
13	4.61	70.6%	21.1%	6.4%	1.1%	0.4%	-	0.4%
14	4.23	43.2%	39.0%	14.9%	2.0%	0.5%	-	0.4%
15	3.84	27.4%	37.5%	27.9%	5.0%	1.7%	-	0.5%
16	3.85	27.1%	38.9%	26.9%	5.1%	1.6%	-	0.5%
17	3.31	14.8%	26.4%	38.9%	13.5%	5.8%	-	0.5%

1年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.01	33.0%	40.2%	22.4%	3.3%	1.0%	-	0.1%
2	3.80	27.2%	34.1%	28.0%	6.9%	1.6%	1.8%	0.4%
3	3.89	28.7%	38.2%	27.1%	5.0%	0.8%	-	0.2%
4	4.01	31.1%	40.3%	26.7%	1.1%	0.5%	-	0.3%
5	3.80	26.1%	36.9%	29.6%	5.8%	1.5%	-	0.1%
6	3.80	25.5%	36.1%	32.4%	4.5%	1.2%	-	0.2%
7	3.90	28.0%	38.9%	29.1%	2.9%	0.8%	-	0.2%
8	4.18	42.7%	37.1%	16.2%	2.9%	0.8%	-	0.3%
9	4.27	40.3%	28.1%	14.0%	1.1%	0.5%	15.7%	0.3%
10	3.86	6.2%	3.5%	5.4%	0.6%	0.6%	82.9%	0.8%
11	3.65	13.6%	40.5%	42.9%	2.0%	0.5%	-	0.5%
12	3.74	19.7%	40.1%	35.0%	3.7%	0.9%	-	0.5%
13	4.57	68.9%	21.5%	7.3%	1.5%	0.5%	-	0.3%
14	4.13	38.4%	39.8%	18.7%	2.0%	0.8%	-	0.4%
15	3.74	22.9%	36.0%	34.2%	4.8%	1.6%	-	0.5%
16	3.80	23.7%	39.2%	30.7%	4.5%	1.4%	-	0.4%
17	3.38	14.8%	28.8%	38.9%	13.1%	3.9%	-	0.5%

2年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.11	41.1%	37.8%	14.0%	5.2%	1.8%	-	0.1%
2	3.95	31.3%	38.4%	19.6%	5.8%	1.8%	2.5%	0.6%
3	3.91	32.0%	37.0%	22.4%	6.5%	1.8%	-	0.3%
4	4.06	35.0%	37.4%	24.9%	1.7%	0.4%	-	0.6%
5	3.88	31.0%	38.2%	20.4%	7.6%	2.4%	-	0.3%
6	3.87	31.5%	35.4%	23.7%	6.4%	2.6%	-	0.4%
7	3.85	27.8%	35.3%	31.2%	4.2%	1.2%	-	0.3%
8	4.36	51.3%	35.4%	10.9%	1.3%	0.6%	-	0.4%
9	4.27	50.1%	28.2%	13.4%	3.4%	1.4%	3.1%	0.5%
10	3.41	4.8%	3.8%	9.3%	1.0%	1.9%	77.7%	1.4%
11	3.68	16.4%	37.4%	43.7%	1.5%	0.5%	-	0.6%
12	3.73	21.7%	40.3%	28.4%	6.9%	2.2%	-	0.5%
13	4.64	72.1%	20.2%	6.0%	0.7%	0.5%	-	0.5%
14	4.23	44.3%	38.0%	14.0%	2.8%	0.5%	-	0.5%
15	3.79	28.0%	35.3%	25.9%	7.7%	2.5%	-	0.5%
16	3.78	26.6%	36.6%	26.5%	7.1%	2.7%	-	0.5%
17	3.12	12.8%	20.9%	40.7%	15.7%	9.4%	-	0.5%

3年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.17	40.3%	42.2%	12.7%	4.0%	0.8%	-	0.1%
2	4.04	31.4%	45.2%	17.9%	3.7%	0.8%	0.8%	0.2%
3	4.05	32.1%	44.6%	19.1%	3.6%	0.4%	-	0.1%
4	4.13	36.1%	42.4%	18.9%	1.6%	0.5%	-	0.6%
5	4.00	31.2%	43.3%	20.3%	4.5%	0.5%	-	0.2%
6	4.06	34.7%	40.4%	21.1%	3.1%	0.5%	-	0.3%
7	3.91	29.6%	37.7%	27.7%	3.9%	1.0%	-	0.1%
8	4.33	49.9%	36.1%	11.7%	1.6%	0.6%	-	0.1%
9	4.03	33.8%	29.2%	14.3%	4.3%	2.9%	15.2%	0.3%
10	4.22	13.1%	10.3%	5.6%	0.2%	0.2%	69.7%	0.9%
11	3.62	12.3%	38.0%	48.5%	0.7%	0.2%	-	0.3%
12	3.86	21.9%	45.7%	28.7%	3.0%	0.5%	-	0.3%
13	4.64	71.3%	21.8%	5.5%	1.0%	0.0%	-	0.5%
14	4.38	49.7%	38.9%	10.1%	0.8%	0.1%	-	0.5%
15	4.08	34.0%	42.7%	20.1%	1.8%	0.9%	-	0.5%
16	4.04	33.3%	41.3%	21.3%	3.2%	0.4%	-	0.5%
17	3.46	17.5%	30.1%	36.4%	11.3%	4.1%	-	0.6%

平成19年度 進路・就職状況について キャリアサポート部長 馬場 きみ江

平成19年度学部卒業生（55期生）、大学院博士前期（修士）課程修了者（32期生）の進路・就職状況について報告します。本学学生の進路・就職状況は昨年同様堅調に推移しています。学部卒業生の場合、特徴が3つあります。第1点目は、大学院進学者が37.8%で昨年を越え、進路・就職先の第1位であるという点です。第2点目は、MR職（医薬情報担当者）が13.7%で前年に比べ7.1%増加している点です。第3点目は、昨年同様公務員希望者・合格者が増加しており、厚生労働省（麻薬取締官）や大阪府警科学捜査研究所、大阪市、宮崎県、岐阜県、島根県、尼崎市等に就職しています。ちなみに卒業生262名の内訳は、薬局・ドラッグストア23.3%（前年26.8%）、病院・研修生14.5%（22.2%）、薬業関連企業15.2%（11.3%）、公務員5.7%（5.8%）、大学院進学37.8%（30.0%）、その他の各種学校1.2%（1.6%）、その他2.3%（0.4%）となっています（平成20年3月31日現在）。また、大学院博士前期（修士）課程修了者の就職は100%で、特に薬業関連企業66.6%（前年63.6%）、病院・研修生11.7%（18.1%）、公務員11.7%（12.7%）等です（平成20年3月31日現在）。

平成20年4月1日現在の薬科大学・薬学部は、国立

14校、公立3校、私立57校で昨年から2校新設（私立）されました。薬学生の就職は、4年制から6年制への移行に伴う、空白の2年間（平成22年、23年）を埋める求人増加が保険薬局等を中心に表れてきていますが、製薬企業や公務員等では厳選採用が続いています。

さらに薬業関連企業では、合併会社を中心に研究、医薬開発部門や学術等においては開発疾患の絞り込みや組織の統廃合が進み各企業で新規採用の見直しも頻回に行われています。また、外資系企業では、外国本社の意向を反映した採用が多くなり、採用数の振れ幅が大きくなっています。キャリアサポート部・キャリアサポート課では、学生へのキャリア教育、キャリアサポート（進路・就職支援）の更なる充実を図っています。多様化している学生のニーズ、価値観に沿った進路・就職先選定のために、キャリアサポート部委員、専属キャリアカウンセラー等を中心にきめ細かな対応に努めています。目まぐるしい環境の変化に迅速かつ的確に対応していく所存です。

下の表は、平成19年度学部卒業生（55期生）、大学院博士前期（修士）課程修了生（32期生）の進路・就職状況及びキャリアサポート活動の現状です。ご参照ください。

平成19年度 学部卒業生（55期生）進路・就職状況

（平成20年3月31日現在）

区分	男	%	女	%	合計	%	
薬局	15	15.8%	46	27.5%	61	23.3%	
病院・診療所	5	5.3%	31	18.6%	36	13.7%	
病院研修生	-	-	2	1.2%	2	0.8%	
薬業関連企業	(MR)	19	20.0%	17	10.2%	36	13.7%
	(内勤)	1	1.0%	3	1.8%	4	1.5%
公務員・教職員	3	3.2%	12	7.2%	15	5.7%	
大学院進学他 (博士前期課程)	49	51.6%	50	29.9%	99	37.8%	
各種学校進学	2	2.1%	1	0.6%	3	1.2%	
その他	1	1.0%	5	3.0%	6	2.3%	
計	95	100.0%	167	100.0%	262	100.0%	

※「公務員・教職員」には、国公立病院（薬剤師）6名（内2名は非常勤）を含む。

平成19年度 大学院博士前期（修士）課程修了生（32期生）進路・就職状況

（平成20年3月31日現在）

区分	男	%	女	%	合計	%
薬局	1	3.6%	3	9.4%	4	6.7%
病院・診療所	2	7.1%	5	15.6%	7	11.7%
病院研修生	-	-	-	-	-	-
薬業関連企業	(MR)	-	2	6.3%	2	3.3%
	(内勤)	20	71.4%	18	56.3%	38
公務員・教職員	4	14.3%	3	9.4%	7	11.7%
大学院進学他 (博士後期課程)	1	3.6%	1	3.1%	2	3.3%
その他	-	-	-	-	-	-
計	28	100.0%	32	100.0%	60	100.0%

※「公務員・教職員」には、国公立病院（薬剤師）2名（非常勤職員）を含む。

平成19年度 学部卒業生 (55期生) の進路・就職先

■公務員・教職員 (計 15)

厚生労働省 (麻薬取締官)	1	大阪市	2	那覇市立病院	1	京都医療センター (非常勤)	1
島根県	2	尼崎市	1	彦根市民病院	1		
岐阜県	1	大阪府科学捜査研究所	1	熊本医療センター	1		
宮崎県	1	公立甲賀病院	1	大阪医療センター (非常勤)	1		

■薬業関連企業・その他 (計 40)

イービーエス(CRO)	1	キッセイ薬品工業	1	武田薬品工業	5	日本A-リカ-インク/ルイ	4
エーザイ	6	クラヤ三星堂	1	田辺三菱製薬	1	ノバルティスファーマ	6
大塚製薬	3	第一三共	3	東和薬品	1	フマキラー	1
キョーリン製薬	2	大日本住友製薬	3	日本イーライリリー	1	明治製菓	1

■病院 (計 36)

石切生喜病院	2	神戸朝日病院	1	高砂西部病院	1	藤井病院	1
大阪労災病院	1	神戸海星病院	1	鳥取赤十字病院	1	府中病院	1
岡山中央病院	1	小松病院	1	富永病院	1	(医) ペガサス	1
川崎医科大学附属川崎病院	1	榊原病院	1	名古屋第二赤十字病院	1	ベルランド総合病院	2
特定医療法人きつこう会	1	吹田病院 (済生会)	1	南国中央病院	1	三重県厚生農業協同組合連合会	1
草津総合病院	1	聖マルチン病院 (香川県)	1	南風病院	1	和泉市立病院 (嘱託職員)	1
久野病院	1	摂津医誠会病院	1	西野内科診療所	1	市立豊中病院 (非常勤)	1
倉敷成人病センター	1	第一東和会病院	1	東生駒病院	1		
倉敷中央病院	1	高石藤井病院	1	九州厚生年金病院 (福岡県)	1		

■薬局・小売 (計 61)

アインファーマシーズ	3	オーパス	10	セガミメディクス	1	ファルコファーマシーズ	1
あきつしま (うちの薬局)	1	かんまき薬局	1	総合メディカル	3	マツモトキヨシ	4
アライドハーツ・ホールディングス	1	協立薬品	3	中国ファーマシー	1	メディカル光	2
アルカ	2	クラフト	5	日本調剤	2	友愛 (大津市)	1
イムノファーマシー大阪	2	サンドラッグ	1	ハーティウォンツ	2	ハマノ薬局 (自営)	1
イング	2	サンブラザ加地	1	阪神調剤薬局	1	川野薬局 (アルバイト)	1
エム・サーバー (大日薬局)	1	シミズ薬局 (浜松市)	1	ファーマシィ (広島県)	1		
オカモト調剤	1	スギ薬局	3	ファーマライズ	2		

■大学院 (博士前期課程) 進学・その他各種学校進学 (計 102)

大阪薬科大学大学院	79	岡山大学大学院	1	広島大学大学院	1	予備校	3
大阪大学大学院	11	神戸大学大学院	2	高知大学医学部医学科 (3年編入)	1		
大阪市立大学大学院	2	名古屋市立大学大学院	2				

■病院研修生 (計 2)

大阪大学医学部附属病院	2
-------------	---

■その他・未定 (計 6)

その他(大阪医科大学/秘書)他	6
-----------------	---

卒業生総数 262

平成19年度 大学院博士前期 (修士) 課程修了生 (32期生) の進路・就職先

■公務員・教職員 (計 7)

神奈川県	1
奈良県	1
京都市	1
京都医療センター (非常勤)	1
国立がんセンター東病院 (非常勤)	1
(独) 医薬品医療機器総合機構	1
滋賀医科大学 [教員]	1

■病院 (計 7)

関西医科大学附属病院	2
滋賀医科大学附属病院	1
順天堂大学医学部附属病院静岡病院	1
武田病院	1
神戸大学医学部附属病院 (非常勤)	1
兵庫県立がんセンター (非常勤)	1

■薬局・小売 (計 3)

イオン	1
キリン堂	1
阪神調剤薬局	1

■薬業関連企業・その他 (計 40)

【MR】 (小計 2)		【開発・臨床開発】 (小計 12)		【学術】 (小計 3)	
塩野義製薬	1	小野薬品工業	1	剂盛堂薬品	1
中外製薬	1	新日本科学	5	大鵬薬品工業	1
		大鵬薬品工業	1	扶桑薬品工業	1
		日本製薬	1		
【研究】 (小計 9)		久光製薬	1	【安全管理・品質管理】 (小計 1)	
宇部興産	1	扶桑薬品工業	1	サラヤ	1
オフテクス	1	丸石製薬	1		
神戸天然物化学	1	メディスサイエンスプランニング	1	【製造・技術】 (小計 1)	
大幸薬品	1			住友精化	1
大正製薬	3	【生産技術】 (小計 3)			
大洋薬品工業	1	エーザイ	1	【医薬品卸】 (小計 2)	
DHC	1	大正製薬	1	アルフレッサ	1
		マルホ	1	クラヤ三星堂	1
【研究開発】 (小計 3)				【総合職】 (小計 2)	
天藤製薬	1	【漢方事業部】 (小計 2)		長瀬産業	1
東和薬品	1	再春館製薬所	2	住化分析センター	1
常盤薬品工業	1				

■大学院 (後期課程) 進学・その他 (計 3)

大阪薬科大学大学院	1	自家業	1
大阪大学大学院	1		

修了生総数 60

第93回薬剤師国家試験の合格者発表が例年より2日早く、4月3日に厚生労働省で行われた。本学の今年度の成績は新卒合格率96.18%（全国55校中3位）であった。本学の新卒合格率が95%を超えたのは3年ぶり、この20年間では2度目のことである（表1）。また、既卒者を含めた全体合格率も89.64%（全国6位）と、これも最近20年間では最高成績であった。これはこの1年間、全学あげて薬剤師国家試験の「成績向上」に取り組んだ成果であり、国家試験対策委員をはじめ関係教職員のご協力と、そして何よりも学生諸君の努力に対し、心から感謝と敬意を表するものである。以下、昨年度の家試験対策の反省点と本年度の方針について、本年5月13日に行われた「薬学総合演習オリエンテーション」に沿って述べてみたいと思う。

第93回薬剤師国家試験は3月8日・9日に実施された。第1日目の「基礎薬学」は基本的な問題が多く、全国平均正答率も例年並みであった。「衛生薬学」、「薬事法・制度」は第15改正日本薬局方の影響で一部新しい傾向の問題も出題されたが、全般に無難な出題傾向で、全国平均正答率も例年並みかやや高い結果となった。第2日目の「医療薬学」のうち、午前中の薬理学は基本的な問題が多く難易度は例年並みであったが、薬剤学はやや癖のある出題傾向で、難易度の高い問題も少なくなかった。午後の実学系と薬物治療学は、例年になく問題間の難易度にばらつきがあり、これらを平均すると2日目全体の医療薬学の全国平均正答率は例年より4%ほど低い71.27%にとどまった。しかしながら全科目の全国平均正答率は、結果的に昨年とほぼ同じ72.10%であった（表2）。このうち本学学生の成績は、「総合」を含め「基礎薬学」、「衛生薬学」、「薬事法・制度」、「医療薬学」の全科目で全国平均を大きく上回る結果となった。このことは、本学の薬剤師国家試験対策の、当面の目的であった、①新卒合格率95%以上を確保すること、②本学の全科目成績を少なくとも全国レベルまで引き上げること、③新卒合格率順位全国5位以上の確保、④既卒者を含めた全体合格率順位全国10位以内の確保、をすべて達成することができた。とりわけ、これまで極めて成績の悪かった「基礎薬学」が、今回ははっきりと回復傾向に転じたことは、極めて喜ばしいことである。本学の「基礎薬学」の成績が向上したことには理由があり、今後もこの傾向は続くものと考えている。しかしながら、好事魔多しの諺通り、今回の結果の中で、手放しで喜んでばかりいられないことが2点ある。一つは4年次卒業延期者問題、もう一つは既卒高年者、すなわち卒業後5～10年以上経過した既卒者の低合格率問題である。2008年の4年次卒業延期者数は23名で、例年の約半分であったが、それでもこの数は卒業予定者の8%であり、いかにも多すぎる数字である。これに今回の新卒国試不合格者10名を合わせ、本学では実質的に33名の不合格者を出していることになる。今後はこの数字を限り

なく0にもって行かなければならない。このためには、私たち教員はより一層努力する必要があると考えている。一方既卒高年者の低合格率問題は、本人はもとより本学にとっても由々しき問題である。最近5年間のデータは、卒後3年を経過すると合格が極めて困難であることを示している。これに関しては残念ながら妙案はなく、当人の自覚を待つ以外解決策はない。

以上、第93回薬剤師国家試験の結果について一部現状分析を交えながら述べてきたが、これら結果を踏まえて今後の目標について述べなければならない。本学は言うまでもなく薬学教育機関であり、その使命の一つとして「薬剤師養成」を掲げている。したがって、少なくとも薬剤師国家試験合格率を95%以上に保つことは、私たち薬学教員の最低限の義務と考えている。この点からすると、最近20年間でたった2回しかこの義務を果たしてこなかったという事実（図1）を真摯に受け止めなければならない。このため本年度も、新卒合格率95%以上と、全科目の正答率が全国平均値を上回ることを最低限の目標にして国家試験対策を考えることとしたい。具体的な対策は以下の通りである。

【基本方針】

1. 本学学生の国家試験の成績を全国レベルに保つこと。
2. 国家試験対策／薬学総合演習は、本学教員があくまでも主体となって行い、外部講師とも協力して、効果的に授業を進めること。
3. 授業には、学生の学習到達度の評価を徹底して行い、その学習到達度別クラス編成を行って、学生の能力に合った授業を進めること。
4. 国家試験対策／薬学総合演習は、通常科目の妨げにならないよう短期間に集中して効率よく行うため、主として後期のみを実施すること。
5. 5回の総合試験と、全国統一模擬試験を、国家試験の様式（各2日間）に準じて実施し、その結果を公表して学生の弱点克服に活用すること。
6. 薬学総合演習の単位認定は、2月に連続で2回実施する正規試験で評価するが、その基準は「第94回薬剤師国家試験に合格するレベルに到達している」かどうかで判断すること。
7. 卒業留年学生には、これまで以上にきめ細かな特別措置を行い、これら学生の国家試験全員合格を目指すこと。

本年度もいくら「最適な」国家試験対策が実施されようと、結果がついてこなければ何の意味もないことは十分承知している。よりよい成果に向かって私たち国家試験対策委員会は最善を尽くしたいと考えているので、関係教職員のご協力をお願い申し上げる次第である。来年の学報には、更により報告が出来るよう祈念している。

表1

最近5年間の新卒国家試験成績

区分		受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	新卒 全国平均
第93回 (H.20)	Y	男 42	41	97.62%	86.30% (86.74%) 全国3位
	計	131	128	97.71%	
	S	男 53	48	90.57%	
	計	131	124	94.66%	
	総数	262	252	96.18%	
	その他				
第92回 (H.19)	Y	男 29	28	96.55%	85.60% (86.54%) 全国15位
	計	161	147	91.30%	
	S	男 47	40	85.11%	
	計	96	81	84.38%	
	総数	257	228	88.72%	
	その他				
第91回 (H.18)	Y	男 45	44	97.78%	85.16% (86.26%) 全国2位
	計	180	173	96.11%	
	S	男 38	31	81.58%	
	計	90	79	87.78%	
	総数	270	252	93.33%	
	その他				
第90回 (H.17)	Y	男 29	29	100.00%	93.29% (94.20%) 全国1位
	計	138	138	100.00%	
	S	男 45	45	100.00%	
	計	97	97	100.00%	
	総数	235	235	100.00%	
	その他				
第89回 (H.16)	Y	男 41	41	100.00%	86.42% (86.97%) 全国4位
	計	163	159	97.55%	
	S	男 30	28	93.33%	
	計	92	82	89.13%	
	総数	255	241	94.51%	
	その他				

表2

最近5年間の薬剤師国家試験科目別・換算点の推移

第93回薬剤師国家試験 (平成20年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国(A)	合計	13,773	69.20	67.08	72.41	74.53	68.30
	新卒	10,025	72.10	70.48	74.91	76.35	71.27
	その他	3,748	61.44	58.03	65.75	69.60	60.34
本学(B)	合計	375	73.35	70.07	77.54	77.43	72.91
	新卒	262	75.89	73.15	79.79	78.88	75.47
	その他	95	66.32	61.56	71.31	73.43	65.85
差異(B)-(A)	合計		4.15	2.98	5.13	2.90	4.62
	新卒		3.79	2.68	4.88	2.53	4.20
	その他		4.89	3.53	5.56	3.83	5.51

第92回薬剤師国家試験 (平成19年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国(A)	合計	12,112	69.19	66.33	66.88	70.23	71.22
	新卒	8,791	72.12	69.42	69.26	72.43	74.37
	その他	3,321	61.45	58.14	60.56	64.45	62.89
本学(B)	合計	340	70.89	66.02	71.05	74.20	72.72
	新卒	257	73.21	68.33	73.54	76.08	75.08
	その他	83	63.68	58.86	63.31	68.38	65.42
差異(B)-(A)	合計		1.70	-0.31	4.18	3.98	1.85
	新卒		1.10	-1.09	4.28	3.65	0.71
	その他		2.23	0.72	2.75	3.93	2.53

第91回薬剤師国家試験 (平成18年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国(A)	合計	11,046	69.15	64.18	71.69	63.63	71.70
	新卒	8,455	72.12	67.17	74.81	65.45	74.81
	その他	2,591	59.44	54.43	61.49	57.70	61.54
本学(B)	合計	345	71.08	63.40	76.15	65.35	74.19
	新卒	270	74.03	65.98	80.05	67.43	77.15
	その他	75	60.47	54.11	62.10	57.93	63.53
差異(B)-(A)	合計		1.94	-0.78	4.46	1.72	2.49
	新卒		1.91	-1.19	5.24	1.97	2.34
	その他		1.04	-0.32	0.61	0.23	1.99

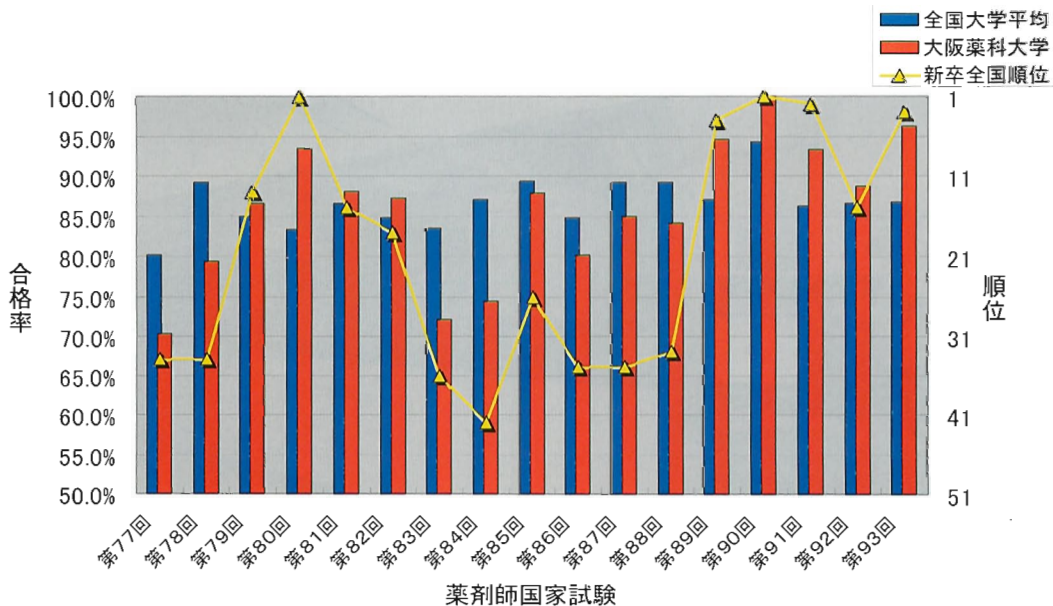
第90回薬剤師国家試験 (平成17年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国(A)	合計	11,590	72.94	67.62	69.76	77.13	75.97
	新卒	8,626	75.76	70.66	72.08	78.63	79.06
	その他	2,964	64.74	58.74	63.01	72.80	66.98
本学(B)	合計	323	73.97	67.00	71.35	79.43	77.42
	新卒	235	77.16	70.31	74.00	81.80	80.87
	その他	88	65.44	58.14	64.26	73.08	68.20
差異(B)-(A)	合計		1.03	-0.62	1.59	2.30	1.45
	新卒		1.40	-0.35	1.93	3.18	1.81
	その他		0.70	-0.60	1.25	0.28	1.22

第89回薬剤師国家試験 (平成16年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国(A)	合計	11,048	69.50	60.41	74.36	69.09	72.50
	新卒	8,504	71.63	62.64	76.26	70.89	74.71
	その他	2,544	62.39	52.98	67.98	63.08	65.11
本学(B)	合計	364	70.48	60.54	76.22	70.10	73.61
	新卒	255	72.75	63.27	78.64	71.31	75.77
	その他	109	65.18	54.14	70.57	67.25	68.56
差異(B)-(A)	合計		0.98	0.13	1.86	1.01	1.11
	新卒		1.12	0.63	2.38	0.42	1.06
	その他		2.79	1.16	2.59	4.17	3.45

図1 本学の新卒合格率及び順位と全国平均合格率の比較



この度、文科省の平成19年度私立学校施設整備費補助金を得て、実験室系では世界最高の能力を有するX線回折装置が本学に導入されました。

ヒトゲノムの解明と云う画期的な生命科学上の発展の結果、構造生物学の分野で平成14年より国家プロジェクトとしてタンパク3000プロジェクトが始まり、日本の研究者によって、この5年間でほぼ初期の目標を達成する蛋白質の構造が解明されました。本学においても平成元年にイメージングプレートを検出器として用いたR-Axis-IIICと回転対陰極型X線発生装置RU-300が導入され、生体高分子の構造解析で幾つかの成果を挙げてきました。その結果、個々の生体高分子の構造に留まらず、真に生命現象を分子レベルで理解するためには分子間相互作用の解析が不可欠と云った認識が深まってきました。特に創薬の分野では、レセプターとリガンド、酵素とインヒビターといった複合体の構造情報に基づいて合理的に新薬を設計しようとする試みが行われるようになりました。更に本学では数年来、合理的な創薬の手法の開発に取り組み、X線結晶構造解析法による構造情報をもとに、NMRによる溶液中で分子間相互作用の解析や、熱量計を用いた解離会合系における熱力学的パラメータの解析等より得られる情報を加味した新しい合理的薬剤の設計法を提案してきました。

一般に蛋白質の複合体の結晶を得る事は困難で、得られたとしても非常に微小な結晶である場合が多く、従来の本学の装置では輝度、検出器の感度ともに低く、最近の研究は全て大型放射光施設（SPring-8）の装置で得た回折像を用いて行ってきました。しかし年に2～3度程度、SPring-8での測定の機会が得られただけで、結晶の最適化すら困難な状況であり、創薬のリード化合物と標的蛋白質の共結晶を系統立てて解析することなどは所詮不可能でした。この状況を打破すべく予算申請を行い、多くの方々のご助力を得て本装置の導入が実現しました。

このX線回折装置は、X線発生装置として実験室系で

は世界最高のX線輝度45.0kW/mm²を達成した超高輝度X線装置（FR-E Super Bright）を有しています。また光源からのX線を人工多層膜のX線集光ミラー（Confocal VariMax）によって集光しφ70μmにまで収束させていて、通常システムよりも数十倍の強度を得ています。検出系として露光、読み取り、消去を同時に行うことが可能な高速度イメージングプレートX線検出装置（R-Axis VII）を有しています。これら放射光施設に匹敵する装置によって、結晶の大きさから来る制約を緩和するとともに、測定時間の大幅な短縮をもたらし、従来何日間もかかっていた測定が1日以内で可能となりました。さらに高輝度なX線は測定時間の短縮だけでなく、高精度な構造決定にとっても有利になります。

本装置のもう一つの大きな特徴は真空中高電圧電子を銅とクロムの異なった対陰極に衝突させて二種の波長のX線を発生し回折測定に用いることが出来る点です。煩雑な対陰極の交換をすることなく、真空状態を保ったまま二つの波長を切り替えることが出来るCu-Cr Dual Targetを備えていて、それぞれの線源に特化した集光ミラーを使用し、下の写真から分るよう中央の光源に対し、左右対称に二台の独立した検出器を有しています。X線結晶解析において回折像から結晶中の原子配置を決定するためには、位相決定という操作が不可欠であり、重原子同型置換法といった重原子を付加した蛋白質の結晶を用いるとか、放射光施設を用いた多波長異常分散法が従来用いられてきました。しかし本装置を用いると、特に重原子置換を行わなくても、Cr線源の波長で硫黄原子の異常分散効果が大きいため、単波長異常分散法（SAD）を用いて蛋白質固有のシステインやメチオニン残基を用いた新規な蛋白質の位相決定が一つの結晶から可能になります。

このような画期的な装置の導入により、本学における構造生物学の研究が大きく発展し、薬学の基盤をなす創薬の研究が推進されることが期待されます。



平成17年度から、本公開教育講座では「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」をテーマに医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点を取り上げ、その解決策について討論してまいりました。本年度も引き続き同じテーマで開催することにし、高齢化社会の到来を念頭に置いて、「がん」「脳梗塞」「緑内障」について、3回にわたって開催いたします。

平成20年度公開教育講座

「薬の作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」

第48回 5月17日(土) 14:00～17:35

①「抗がん剤の分子標的薬」

中外製薬株式会社 研究本部 創薬企画推進部
部長 岡部尚文 先生

②「消化器がん化学療法～胃・大腸がんを中心に～」

大阪医科大学 第2内科 助教 後藤昌弘 先生



岡部先生



後藤先生

第49回 7月19日(土) 14:00～17:35

①「脳梗塞治療薬の現状と今後」(予定)

田辺三菱製薬株式会社 薬理研究所
主任研究員 幸 敏志 先生

②「脳梗塞の薬物治療:急性期から再発予防まで」(予定)

国立循環器病センター 内科脳血管部門
医長 豊田一則 先生

第50回 11月22日(土) 14:00～17:35

①「緑内障治療の現状」(予定)

大阪厚生年金病院 眼科部長 桑山泰明 先生

②「緑内障治療薬の現状と開発状況」(予定)

参天製薬株式会社 研究開発本部
研究開発企画室長 宮脇宣明 先生

開催場所: 梅田スカイビルタワーウエスト36階
会議室L・R

平成20年度市民講座

大阪薬科大学市民講座は、大学における対外的な活動の一環として、これまで「健康とくすり」をメインテーマとし、人々の健康への願い、医療や福祉の在り方等の御要望に応える為に、活発な講演活動を行ってまいりました。お蔭様をもちまして、周辺地域に定着し、平成20年度も下記の日程にて2回の開催をすることになりました。これもひとえに多くの皆様方の御支援の賜と、関係者一同、心より感謝いたしております。

平成20年度市民講座

「健康とくすり」

第25回 5月24日(土) 13:00～16:10

1. 「食の安全に取り組む」

高槻市保健所 健康衛生課 食品衛生係
岡本 圭介 先生

2. 「食の安全と残留農薬」

東京都健康安全研究センター 残留物質研究科
永山 敏廣 先生

第26回 10月25日(土) 13:00～16:10

1. 「小児アレルギーについて」(予定)

阿武山こどもクリニック 院長
岡本 良三 先生

2. 「スギ花粉症など、アレルギーに悩む現代人」(予定)

大阪医科大学附属病院 耳鼻咽喉科 科長
竹中 洋 先生

また、これまでと同様、日頃のくすりに関する悩みや疑問などの相談に応じる「くすりの相談室」を、第一線で活躍中の地元の薬剤師会の先生方に御協力をお願いしております。また、本市民講座に附設して、本学自慢の薬用植物園におきまして、生薬学関係教職員が説明します「薬用植物園の見学」も同様に開催いたします。本学教職員や学生、ならびにその御家族の皆様方の本市民講座への御参加を期待しております。



今年もまた桜が見事に咲きました。桜は毎年必ず見事に咲いてくれます。あの満開の桜の情景には、おそらく日本人であれば誰でも同じような感動を抱くのではないのでしょうか。

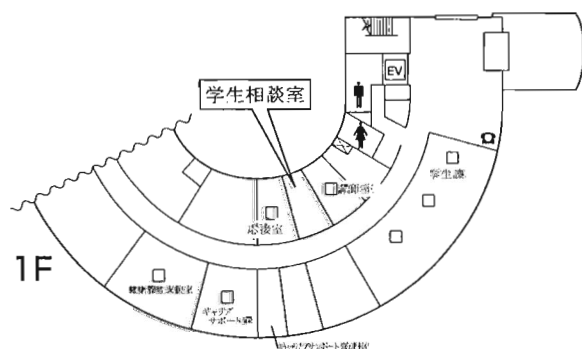
ところで最近「KY」という言葉が流行っています。「(K) 空気が (Y) 読めない」です。わざわざ記号化して言うのには二つの訳があります。ひとつは本人にその意味を知られないようにするため、もうひとつは言い合う者同士が仲間意識を共有するため。そのためKYと言われる人は二重の意味でその場から外されることとなります。これはなかなかツライ……。日本では個人が個人的な意見を持つことよりも、場にふさわしい言動をすることが望まれます。それはもしかすると先ほどの桜の話のように、昔からひとつの場面に自然と同じ感を抱く場合が多かったからなのかもしれません。

外国人が日本に来てあの満開の桜を見たとき、どんなふうを感じるのでしょうか。たぶんきれいだと感動するでしょう。でも日本人が抱く感動とはおそらくニュアンスが違うのではないかと思います。それを外国人に正確に伝えるのは容易ではないはずですが、でも伝えられるものなら伝えてみたい気がします。

KYだと当人をあちらに外し、こちらはこちらで仲良くやっていれば、その場は安全です。でもKYな人がなぜそういう言動をするのか聞いてみる。こちらの共通意識を何とか伝えてみる。そういう対話は容易ではないけれど、けっこう楽しいようにも思うのですが、どうでしょう。

《場所》

本部・図書館棟1階



学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に2回、カウンセラー（専門の臨床心理士）が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



岡 鈴佳相談員



原 祐子相談員

開室時間：毎週火・木曜日 12:00-16:00

tel：(072) 690-1077 (直通)

mail：counsel@gly.oups.ac.jp

学生相談室は、学生生活の中で出会う様々な問題について話し合い相談できる場所です。

話せば何か解決の糸口が見つかるかもしれません。一人で悩まずに、気軽にドアをノックして下さい。相談は一人でも、友だちと一緒にでもかまいません。直通電話もあります。

《利用方法》

直接相談室を訪ねてください。

本人が来室できない時は、家族、友人が代わって来談することもできます。

予約もできます。

相談室前の申込用紙・白板を利用してください。

直通電話は開室時間内のみ可能です。

メール予約は開室時間内のみ可能です。

平成19年度学校法人決算及び平成20年度学校法人予算

事務局長 田部 信重

平成19年度決算

学校法人大阪薬科大学の平成19年度決算については、平成20年5月27日（火）に開催された理事会及び評議員会において承認されたので、資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録および監事監査報告書を掲載し、その概要を説明する。

(資金収支計算書)

平成19年度の資金収支は、主な収入源である学生生徒等納付金収入が、予算を3,942万円上回った。また、主な支出源である人件費支出が、予算を6,870万円下回った。その結果、次年度繰越支払資金は26億5,511万円となった。

(消費収支計算書)

平成19年度の消費収支は、予算より改善され、消費支出超過額は1億5,244万円であり、翌年度繰越消費収入超過額は12億7,502万円となった。

(貸借対照表)

平成19年度資産総額は、18年度と比較して4億6,592万円増加し、228億8,453万円となった。負債総額は借入金元金の減少等から、18年度と比較して1億8,325万円減少し、34億2,431万円となった。

平成20年度予算

学校法人大阪薬科大学の平成20年度予算については、事業計画及び予算編成方針（平成20年度は新学舎建設及びキャンパス整備事業の推進を行う）に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行ったが、平成20年3月24日（月）に開催された理事会および評議員会において承認されたので、資金収支予算書・消費収支予算書を掲載し、資金収支科目を中心に、その概要を説明する。

(総括)

平成20年度の収入予算総額（収入の部合計一前年度繰越支払資金）は71億9,040万円、支出予算総額（支出の部合計一次年度繰越支払資金）は89億2,630万円であり、差引き17億3,590万円の支出超過となる。

<収入の部>

(学生生徒等納付金収入)

学部新入生は入学定員（300名）として予算編成し、授業料16億3,160万円、入学金1億7,050万円、施設設備費7億6,620万円他を計上した。

(補助金収入)

私立大学等経常費補助金2億9,500万円、施設整備費補助金2,500万円他を計上した。

(事業収入)

附属薬局の収入予算4億7,350万円他を計上した。

(借入金収入)

新学舎建設費の一部10億円（1年措置、6年返済）借入分を計上した。

<支出の部>

(人件費支出)

教員人件費は9億3,020万円、事務職員人件費は附属薬局分を含め4億8,960万円、退職金は4,720万円他を計上した。

(教育研究経費支出)

事務処理用コンピュータシステム更新（教務系システム）のソフトウェア分・保守料・設定費、C B T演習システムリース料 他、計6億8,960万円を計上した。

(管理経費支出)

事務処理用コンピュータシステム更新（法人系システム）のソフトウェア分・保守料・設定費、附属薬局費支出 他、計5億7,800万円他を計上した。

(施設関係支出)

建設支出として、新学舎設計料、建設費、建物附属設備（ネットワークLAN工事、電話線入線等）他を含め、23億9,630万円を計上した。

(設備関係支出)

情報演習室パソコン更新、臨床系フロア什器備品、マルチメディア機器、什器備品、C B T室パソコン、ネットワーク機器更新 他、計5億4,280万円を計上した。

平成19年度 資金収支計算書

平成19年4月1日から
平成20年3月31日まで (単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,549,200,000	2,588,620,000	△ 39,420,000
手数料収入	81,100,000	101,796,990	△ 20,696,990
寄付金収入	15,000,000	21,650,000	△ 6,650,000
補助金収入	247,600,000	331,822,797	△ 84,222,797
国庫補助金収入	247,500,000	331,708,000	△ 84,208,000
高槻市若核対策費補助金収入	100,000	114,797	△ 14,797
資産運用収入	40,000,000	95,379,980	△ 55,379,980
資産売却収入	0	1,335,665,000	△1,335,665,000
事業収入	508,500,000	503,517,725	4,982,275
雑収入	43,700,000	47,293,570	△ 3,593,570
前受金収入	452,000,000	625,200,000	△ 173,200,000
その他の収入	217,100,000	189,910,469	27,189,531
資金収入調整勘定	△ 595,700,000	△ 679,382,180	83,682,180
前年度繰越支払資金	2,064,400,000	2,137,655,839	
収入の部合計	5,622,900,000	7,299,130,190	△1,676,230,190

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,474,900,000	1,406,201,204	68,698,796
教育研究経費支出	578,700,000	566,048,318	12,651,682
管理経費支出	561,000,000	549,113,245	11,886,755
借入金等利息支出	99,400,000	99,315,012	84,988
借入金等返済支出	344,500,000	344,430,000	70,000
施設関係支出	103,700,000	291,519,900	△ 187,819,900
設備関係支出	166,000,000	231,660,578	△ 65,660,578
資産運用支出	0	1,215,156,295	△ 1,215,156,295
その他の支出	181,900,000	159,240,310	22,659,690
[予備費]	(0)		
	40,000,000		40,000,000
資金支出調整勘定	△ 151,500,000	△ 218,668,572	67,168,572
次年度繰越支払資金	2,224,300,000	2,655,113,900	△ 430,813,900
支出の部合計	5,622,900,000	7,299,130,190	△ 1,676,230,190

平成19年度 消費収支計算書

平成19年4月1日から
平成20年3月31日まで (単位：円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,549,200,000	2,588,620,000	△ 39,420,000
手数料	81,100,000	101,796,990	△ 20,696,990
寄付金	15,000,000	23,777,247	△ 8,777,247
補助金	247,600,000	331,822,797	△ 84,222,797
国庫補助金	247,500,000	331,708,000	△ 84,208,000
高槻市若核対策費補助金	100,000	114,797	△ 14,797
資産運用収入	40,000,000	95,379,980	△ 55,379,980
資産売却差額	0	16,751,000	△ 16,751,000
事業収入	508,500,000	503,517,725	4,982,275
雑収入	43,700,000	47,293,570	△ 3,593,570
帰属収入合計	3,485,100,000	3,708,959,309	△ 223,859,309
基本金組入額合計	△ 554,500,000	△ 801,613,385	247,113,385
消費収入の部合計	2,930,600,000	2,907,345,924	23,254,076

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,451,200,000	1,396,143,174	55,056,826
教育研究経費	988,300,000	937,937,705	50,362,295
管理経費	596,400,000	591,163,417	5,236,583
借入金等利息	99,400,000	99,315,012	84,988
資産処分差額	0	35,195,345	△ 35,195,345
徴収不能額	0	26,400	△ 26,400
[予備費]	(0)		
	40,000,000		40,000,000
消費支出の部合計	3,175,300,000	3,059,781,053	115,518,947
当年度消費支出超過額	244,700,000	152,435,129	
前年度繰越消費収入超過額	1,348,400,000	1,427,453,025	
翌年度繰越消費収入超過額	1,103,700,000	1,275,017,896	

貸借対照表

平成20年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目	平成19年度末	平成18年度末	増 減
固定資産	17,329,469,007	18,980,243,705	△ 1,650,774,698
有形固定資産	15,416,129,237	15,323,229,941	92,899,296
土地	8,721,420,350	8,721,420,350	0
建物	4,329,677,189	4,597,789,703	△ 268,112,514
その他の有形固定資産	2,365,031,698	2,004,019,888	361,011,810
その他の固定資産	1,913,339,770	3,657,013,764	△ 1,743,673,994
流動資産	5,555,063,214	3,438,364,132	2,116,699,082
現金預金	2,655,113,900	2,137,655,839	517,458,061
その他の流動資産	2,899,949,314	1,300,708,293	1,599,241,021
資産の部合計	22,884,532,221	22,418,607,837	465,924,384

負債の部			
科 目	平成19年度末	平成18年度末	増 減
固定負債	2,265,114,539	2,619,602,569	△ 354,488,030
長期借入金	1,466,580,000	1,811,010,000	△ 344,430,000
その他の固定負債	798,534,539	808,592,569	△ 10,058,030
流動負債	1,159,198,794	987,964,636	171,234,158
短期借入金	344,430,000	344,430,000	0
その他の流動負債	814,768,794	643,534,636	171,234,158
負債の部合計	3,424,313,333	3,607,567,205	△ 183,253,872
基本金の部			
第1号基本金	17,899,200,992	17,097,587,607	801,613,385
第3号基本金	85,000,000	85,000,000	0
第4号基本金	201,000,000	201,000,000	0
基本金の部合計	18,185,200,992	17,383,587,607	801,613,385
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	1,275,017,896	1,427,453,025	△ 152,435,129
消費収支差額の部合計	1,275,017,896	1,427,453,025	△ 152,435,129
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	22,884,532,221	22,418,607,837	465,924,384

財産目録 平成20年3月31日

(単位：円)

I 資産総額	22,884,532,221
内 基本財産	15,425,183,981
運用財産	7,459,348,240
II 負債総額	3,424,313,333
III 正味財産	19,460,218,888

(単位：円)

区 分	金 額
資産額	
1基本財産	15,425,183,981
土地	59,259.53㎡ 8,721,420,350
建物（付属設備を含む）	28,527.75㎡ 4,329,677,189
建設仮勘定	286,261,500
図書	87,243冊 1,245,652,383 1,734巻
構築物・機器備品	1,626点 832,034,997
その他	10,137,562
2運用財産	7,459,348,240
現金預金	2,655,113,900
その他	4,804,234,340
資 産 総 額	22,884,532,221

区 分	金 額
負債額	
1固定負債	2,609,544,539
長期借入金	1,811,010,000
その他	798,534,539
2流動負債	814,768,794
負 債 総 額	3,424,313,333
正 味 財 産（資産総額－負債総額）	19,460,218,888

注記 固定負債長期借入金について
貸借対照表では、平成20年度期中において、返済予定のものは、短期借入金としている。

監査報告書

平成20年 5月21日

学校法人 大阪薬科大学
理事長 矢内原千鶴子 殿

学校法人 大阪薬科大学
監事 露口佳彦
監事 吉田訓康

私たちは、学校法人大阪薬科大学の監事として、私立学校法第37条第3項並びに寄附行為第33条に基づいて同学校法人の平成19年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上

■平成20年度予算

平成20年度

資金収支予算書

平成20年4月1日から
平成21年3月31日まで (単位：千円)

収入の部			
科 目	平成20年度予算	平成19年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	2,570,300	2,549,200	21,100
手数料収入	80,600	81,100	△ 500
寄付金収入	17,000	15,000	2,000
補助金収入	322,800	247,600	75,200
国庫補助金収入	322,700	247,500	75,200
高槻市臨検対策補助金収入	100	100	0
資産運用収入	50,000	40,000	10,000
資産売却収入	2,600,000	0	2,600,000
事業収入	480,100	508,500	△ 28,400
雑収入	40,200	43,700	△ 3,500
借入金等収入	1,000,000	0	1,000,000
前受金収入	430,400	452,000	△ 21,600
その他の収入	193,900	217,100	△ 23,200
資金収入調整勘定	△ 594,900	△ 595,700	800
前年度繰越支払資金	2,504,600	2,064,400	440,200
収入の部合計	9,695,000	5,622,900	4,072,100

支出の部			
科 目	平成20年度予算	平成19年度予算	増 減
人件費支出	1,489,000	1,474,900	14,100
教育研究経費支出	689,600	578,700	110,900
管理経費支出	578,000	561,000	17,000
借入金等利息支出	98,100	99,400	△ 1,300
借入金等返済支出	344,500	344,500	0
施設関係支出	2,396,700	103,700	2,293,000
設備関係支出	542,800	166,000	376,800
資産運用支出	2,600,000	0	2,600,000
その他の支出	188,400	181,900	6,500
[予備費]	120,000	40,000	80,000
資金支出調整勘定	△ 120,800	△ 151,500	30,700
次年度繰越支払資金	768,700	2,224,300	△ 1,455,600
支出の部合計	9,695,000	5,622,900	4,072,100

平成20年度

消費収支予算書

平成20年4月1日から
平成21年3月31日まで (単位：千円)

消費収入の部			
科 目	平成20年度予算	平成19年度予算	増 減
学生生徒等納付金	2,570,300	2,549,200	21,100
手数料	80,600	81,100	△ 500
寄付金	17,000	15,000	2,000
補助金	322,800	247,600	75,200
国庫補助金	322,700	247,500	75,200
高槻市臨検対策補助金収入	100	100	0
資産運用収入	50,000	40,000	10,000
資産売却差額	7,000	0	7,000
事業収入	480,100	508,500	△ 28,400
雑収入	40,200	43,700	△ 3,500
帰属収入合計	3,568,000	3,485,100	82,900
基本金組入額合計	△ 1,998,900	△ 554,500	△ 1,444,400
消費収入の部合計	1,569,100	2,930,600	△ 1,361,500

消費支出の部			
科 目	平成20年度予算	平成19年度予算	増 減
人件費	1,462,200	1,451,200	11,000
教育研究経費	1,065,700	988,300	77,400
管理経費	613,200	596,400	16,800
借入金等利息	98,100	99,400	△ 1,300
資産処分差額	1,600	0	1,600
[予備費]	120,000	40,000	80,000
消費支出の部合計	3,360,800	3,175,300	185,500

当年度消費支出超過額	1,791,700	244,700	1,547,000
前年度繰越消費収入超過額	1,233,500	1,348,400	△ 114,900
翌年度繰越消費支出超過額	558,200	0	558,200
翌年度繰越消費収入超過額	0	1,103,700	△ 1,103,700

各課だより

総務課

■人 事

<大学関係>

採 用 (平成20年2月1日付)

技術職員 瀬川 隆夫 (嘱託職員)
(平成20年4月1日付)

事務職員 中村 達也

事務職員 清水 信行

特別研修薬剤師 清家 希穂

辞 職 (平成20年3月31日付)

学 長 栗原 拓史

退 職 (平成20年1月31日付)

薬 劑 師 武居 睦子 (任期満了)

客員助教 西 義則

(平成20年3月31日付)

准 教 授 阿部 功 (定年)

事務職員 後久 忠雄 (任期満了)

用 務 員 岩元 俱江 (定年)

事務職員 谷口 誠亮

特別研修薬剤師 疋田 裕子 (任期満了)

昇 任 (平成20年4月1日付)

助 教 浅野 晶子

主 任 藤田 梨誇

主 任 鈴木 靖規 (附属薬局薬剤師)

任 用 (平成20年4月1日付)

学長事務取扱 掛見 正郎

(平成20年6月1日付)

学 長 千熊 正彦 (任期4年)

併 任 (平成20年1月1日付)

共同研究センター長 天野富美夫 (教授)

(平成20年4月1日付)

キャリアサポート部長 馬場きみ江 (教授)

図書館長 田中 一彦 (教授)

研究委員長 松村 靖夫 (教授)

(平成20年4月9日付)

大学院博士前期課程担当教員 大喜多 守 (講 師)

大学院博士前期課程指導教員 佐藤 卓史 (助 教)

大学院博士前期課程指導教員 浅野 晶子 (助 教)

(平成20年6月18日付)

大学院博士後期課程担当教員 大野 行弘 (准教授)

配置換え (平成20年4月1日付)

図書課長 高橋 正好 (総務課長)

キャリアサポート課課長補佐

増家 博 (入試・広報課課長補佐)

教務課係長 塚田ひろみ (キャリアサポート課係長)

入試・広報課主任 川崎 香子 (附属薬局主任)

教務課員 中野 葉月 (入試・広報課員)

委 嘱 (平成20年4月1日付)

教 授 千熊 正彦 (嘱託)

校 医 柚木 孝士 (非常勤)

学生相談室顧問 米田 博 (非常勤)

学生相談室相談員 岡 鈴佳 (非常勤)

学生相談室相談員 原 祐子 (非常勤)

解 嘱 (平成20年3月31日付)

教 授 池田 潔 (嘱託)

教 授 坂田 勝治 (嘱託)

用 務 員 喜村留美子 (嘱託)

(平成20年5月31日付)

教 授 千熊 正彦 (嘱託)

退 任 (平成20年5月31日付)

学長事務取扱 掛見 正郎 (教授)

招へい教授 (平成20年4月1日付)

濱 六郎 (客員研究員)

Tzyh-Chang Hwang (客員研究員)

非常勤講師 (平成20年4月1日付)

<学部>

伊藤 信也 (人間と文化4b)

井上 径子 (英語1)

大川 裕也 (英語1)

奥村沙矢香 (英語3)

桂山 康司 (異文化言語演習1)

小松 敏彦 (健康科学演習)

武内 徹 (免疫学)

谷口 智美 (フランス語1、2)

鶴 真一 (フランス語4、人間と文化4a)

土居 俊平 (人間と文化1a)

戸田 有一 (人間と文化1b)

中村 恵 (ドイツ語1、ドイツ語2、ドイツ語4、
異文化言語演習1)

橋口 雅美 (健康科学演習)
樋口 久 (英語1)
藤本 幸治 (異文化言語演習1)
榎矢 桂一 (ドイツ語1、ドイツ語2、異文化言語演習1)
Joseph Michael Jacobs (英語3)
Judith Lynn Ritter (英語3)
宮田 真希 (健康科学演習) (非常勤助手)
門川 裕美 (健康科学演習) (非常勤助手)

<大学院>

上野 和行 (臨床医学Ⅲ (臨床薬剤学Ⅱ))
濱 六郎 (薬剤疫学)
林 哲也 (病態生理学Ⅰ)
樋口純一郎 (臨床心理学)
光木 徹 (臨床医学Ⅱ)
吉栖 正典 (薬効安全性学 (医療薬学Ⅱ))

客員研究員 (平成20年4月1日付)

濱 六郎
相馬 義郎
Tzyh-Chang Hwang

<法人関係>

理事・評議員辞任 (平成20年3月31日付)

栗原 拓史

評議員退任 (平成20年5月10日付)

大川 滋紀
大木 令司
岡田 健治
岡本富士雄
加藤 義春
川島 康生
小網 和秀
澤木 茂
田中 一彦
辻坊 裕
東 敏夫
松谷 俊彦
油野奈那子

評議員就任 (平成20年5月11日付)

有田 浩和
池田 潔
石田 寿昌

植木 實
大谷 光昭
岡村 一美
織田 美夫
掛見 正郎
堅田 義次
佐藤健太郎
常風 潤一
鈴木 芳郎
田中 京子
田部 信重
寺本 武史
土井 勝
中元 安雄
濱 一郎
浜岡 純治
馬場きみ江
人見 滋樹
松村 靖夫
美並 慶子
矢内原千鶴子
山西 弘一

(平成20年6月1日付)

千熊 正彦

理事退任 (平成20年6月19日付)

石田 寿昌
川島 康生
小網 和秀
松谷 俊彦

理事就任 (平成20年6月1日付)

千熊 正彦
(平成20年6月20日付)

有田 浩和
井上 通敏
掛見 正郎
佐藤健太郎
田中 京子
田部 信重
土井 勝
浜岡 純治
人見 滋樹
矢内原千鶴子

■学位記授与式

平成20年3月15日（土）午前10時30分より体育館において、平成19年度大阪薬科大学学位記授与式（学部257名、大学院博士前期（修士）課程55名）が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



学位記授与式

■同窓会賞の贈呈

学部卒業生のうち、各学科の成績最優秀者、（薬学科 前田麻里、生命薬学科 井上真希）に対し、本学同窓会から表彰状と副賞が贈呈されました。



同窓会賞授与

■入学式

平成20年4月4日（金）午前10時30分より体育館において、平成20年度大阪薬科大学入学式（学部362名（含む編入学生1名）、大学院博士前期（修士）課程84名）が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



入学式

■研究助成

（財）てんかん治療研究振興財団助成

大野 行弘（薬品作用解析学研究室准教授）

研究題目「てんかんモデル動物を用いた脳アストログリアK+チャネルの病態解析研究」

■慶弔

<訃報>

榎 健壽 元学長（平成19年12月18日 逝去）

（在任期間 昭和46年5月～昭和54年5月）

森本史郎 名誉教授（平成20年3月3日 逝去）

研究管理支援室

研究管理支援室が新設されて一年になります。

初年度はハイテク関連シンポジウム、動物慰霊祭、規程の作成、あるいは委員会や勉強会、シンポジウムなどの支援や共同研究センターの利用集計などが主な仕事でした。

今年度から本格的に研究支援活動に取り組んでいきます。

なお、初年度の主な行事の概要は次のとおりです。

1. ハイテク・リサーチ・センター

平成19年度公開シンポジウム/ポスターセッションは平成19年12月8日(土)9時50分より講義室2Aにおいて「生活習慣病を標的とする分子構造と分子間相互作用の情報に基づく合理的創薬システムの開発」と「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機構の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」の合同公開シンポジウムおよび懇親会を開催しました。

2. 動物慰霊祭

平成19年12月12日(水)午後0時30分より講堂において、日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約300名参加のもと、実験動物慰霊祭が執り行いました。

最初に参加者全員で黙祷をおこない、続いて栗原学長の挨拶、安田動物関連研究施設管理責任者の利用状況についての報告、松島研究倫理審査委員会委員長代行より「動物

実験の倫理について」の講演、掛見動物関連研究施設運営委員長から式典に寄せる挨拶、最後に全員で献花を行い、哀悼の意を捧げました。

3. 動物実験について

平成19年度の動物実験の概要は、以下の通りです。

- (1) 実験従事者：研究者総数291名
(教員、大学院生、学部学生等)
学部学生実習生(1年次生および3年次生)
- (2) 教育・研究において使用した実験動物：
総数8,666匹(ウサギ、モルモット、マウス、ラット等)



動物慰霊祭

平成20年度 科学研究費補助金採択状況

区分	職名	氏名	研究種目	研究課題	配分額(千円)
継続	准教授	大桃 善朗	基盤研究(C)	シグマレセプターを標的とする癌の分子イメージング画像診断剤の開発に関する研究	800
	教授	掛見 正郎	基盤研究(C)	メカニズムに基づいたPK-PD解析モデルによる医薬品の最適投与設計	700
	教授	辻坊 裕	基盤研究(C)	細菌のキチン分解機構に関する研究	800
	講師	恩田 光子	基盤研究(C)	DPCを用いた臨床経済的評価の病院マネジメントへの応用に関する研究	600
	助教	平田 雅彦	基盤研究(C)	癌の早期診断と抗癌剤の薬効予測可能な新規シグナル伝達分子イメージング薬剤の開発	800
新規	教授	石田 寿昌	基盤研究(C)	タウ蛋白質のタンブル形成阻害剤の開発：認知症治療・予防薬開発のための基盤研究	2,300
	教授	千熊 正彦	基盤研究(C)	シスプラチン耐性がん有効な複核白金錯体の多様な核酸認識	2,800
	教授	松村 靖夫	基盤研究(C)	虚血性臓器障害と交感神経：エンドセリンおよびアンジオテンシン系の役割と性差	2,300
	教授	土井 光樹	基盤研究(C)	β アミノ酸導入によるエラスチンフラグメントの医療基剤への応用	1,000
	講師	藤井 忍	基盤研究(C)	スフィンゴミエリナーゼの触媒機構の分子論	1,500
	客員助教	西 義則	若手研究(B)	分子間相互作用におけるエンドロピエの寄与に注目したドラッグデザイン	2,100
合計		11件			15,700

平成21年度 納付金について

薬学部 納付金 [薬学科 (6年制)・薬科学科 (4年制) 共通]

区 分		初 年 度		
		前 期	後 期	計
入 学 金		400,000円	—	400,000円
学 費	授 業 料	600,000円	600,000円	1,200,000円
	施設・設備費	300,000円	300,000円	600,000円
計		1,300,000円	900,000円	2,200,000円

※5年次以降に予定されている学外での病院・薬局実務実習に必要な費用は大学が負担します。

※学友会及び育友会から徴収を委託されている納付金として、学友会入会金1,000円(初年度のみ)、学友会費5,000円(年額)及び育友会費18,000円(年額)があります。

なお、学友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

大学院 納付金

区 分		初 年 度		
		前 期	後 期	計
入 学 金	他大学卒業生	300,000円	—	300,000円
	本学卒業生	150,000円	—	150,000円
授 業 料	推薦(一般)入学生・ 一般入学生	400,000円	400,000円	800,000円
	推薦(特別)入学生	300,000円	300,000円	600,000円

※学外で研修等を実施する場合、別途費用を徴収することがあります。

※育友会から徴収を委託されている納付金として、育友会費18,000円(年額)があります。

学費納付書の送付について

学費納付書は、毎年、前期分は4月初旬に、後期分は10月初旬にご自宅へ郵送しています。納付期日は、次のとおりです。

前期分学費	4月16日から 4月30日
後期分学費	10月16日から10月30日

なお、納付金を滞納し、督促を受けても所定期日までに納付しない者は除籍となります(大阪薬科大学学則第17条)ので、ご注意ください。納付が遅れる特別な事情がある方は、大学(学生課)に事前にご連絡ください。

入試・広報課

平成20年度 大阪薬科大学大学院入学試験結果

入試種別	推薦入試			一般入試 (一次)			一般入試 (二次)			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
募集人員	16			24			若干名					
志願者	6	10	16	49	47	96	7	1	8	62	58	120
受験者	6	10	16	45	46	91	6	1	7	57	57	114
合格者	6	10	16	37	43	80	6	1	7	49	54	103
入学者	6	10	16	31	32	63	5	0	5	42	42	84

平成20年度 大阪薬科大学入学試験結果

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)			センター試験利用入試 (C方式)			一般入試 I (F方式)		
募集人員	60			20			80		
性別	男	女	計	男	女	計	男	女	計
志願者	202	344	546	303	391	694	221	317	538
受験者	199	340	539	303	391	694	213	307	520
合格者	57	132	189	115	163	278	95	137	232
入学者	31	65	96	11	12	23	40	49	89

平成21年度入試概要

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試 I (F方式)
募集人員	80名	20名	70名
出願開始日	平成20年10月28日(火)	平成21年1月8日(木)	平成21年1月8日(木)
出願締切日	平成20年11月4日(火) 消印有効	平成21年1月16日(金) 消印有効	平成21年1月26日(月) 消印有効 平成21年1月27日(火) のみ持参可
入学試験日	平成20年11月8日(土)	平成21年1月17日(土) 平成21年1月18日(日)	平成21年2月1日(日)
合格発表日	平成20年11月20日(木)	平成21年2月7日(土)	平成21年2月7日(土)
入学手続締切日	1次 平成20年12月1日(月) (2段階方式) 2次 平成20年12月25日(木)	1次 平成21年2月16日(月) (2段階方式) 2次 平成21年3月23日(月)	1次 平成21年2月16日(月) (2段階方式) 2次 平成21年3月23日(月)
試験場	本学		本学・駿台予備学校大阪南校・ RCC文化センター・高松商工会議所会館
選考内容 (時間・配点)	[調査書] 150点 (理科、外国語の評定平均値 各25点、 数学、全体の評定平均値 各50点) 適性確認 [理科] 75分 150点 化学I、生物I から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語I 英語II リーディング ライティング	センター試験利用科目 [理科] 200点 化学I、生物I、物理I のうち最高得点科目を採用 し、それを2倍する [外国語] 200点 英語(リスニングを含む) ※記述式(200点満点) とリスニング(50点満点) の合計得点を200点満点 に換算する [数学] 200点 数学I・数学A 100点 数学II・数学B 100点 本学の個別学力検査等は実施しない	[理科] 90分 100点 化学(化学I、化学II「選択分 野を含む」) 生物(生物I、生物II「選択分 野を含む」) から1科目を選択する [外国語] 75分 75点 英語I 英語II リーディング ライティング [数学] 75分 75点 数学I 数学II 数学A 数学B(数列、ベクトル) [調査書] 150点 (理科、外国語、数学の評定平均値 各25 点、全体の評定平均値 75点)
判定	適性確認等及び 提出書類を総合して判定する	センター試験の成績及び 提出書類を総合して判定する	学力試験等及び 提出書類を総合して判定する
入学検定料	35,000円	20,000円	35,000円
備考	現役に限る		

一般入試Ⅱ (G方式)			帰国生徒特別選抜 (K方式)			計			編入学試験 (H方式)		
90			若干名						5		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
446	489	935	0	3	3	1,172	1,544	2,716	1	2	3
372	402	774	0	3	3	1,087	1,443	2,530	1	2	3
131	139	270	0	2	2	398	573	971	1	0	1
53	52	105	0	2	2	135	180	315	1	0	1

一般入試Ⅱ (G方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
80名	若干名	5名
平成21年 1月 8日 (木)	平成20年10月24日 (金)	平成20年 8月20日 (水)
平成21年 2月 3日 (火) 消印有効 平成21年 2月 4日 (水) のみ持参可	平成20年10月30日 (木) 消印有効	平成20年 8月26日 (火) 消印有効
平成21年 2月 9日 (月)	平成20年11月 8日 (土)	平成20年 8月30日 (土)
平成21年 2月17日 (火)	平成20年11月20日 (木)	平成20年 9月 8日 (月)
1次 平成21年 2月23日 (月) (2段階方式) 2次 平成21年 3月23日 (月)	平成20年12月25日 (木) (一括方式)	1次 平成20年 9月12日 (金) (2段階方式) 2次 平成20年12月25日 (木)
本学・駿台予備学校大阪南校 RCC文化センター	本 学	本 学
[理 科] 90分 100点 化学 (化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分 野を含む」) 生物 (生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分 野を含む」) から1科目を選択する	適性確認 [理 科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング	[英 語] 45分 50点 [数 学] 45分 50点 [基礎有機化学] 60分 100点 [基礎生物学] 60分 100点 [基礎化学] 60分 100点 [面 接]
[外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング	[面 接] 学習意欲、日本語能力を確認 する 薬学を修める上で必要な分野 を試問する	
[数 学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B (数列、ベクトル)		
学力試験及び 提出書類を総合して判定する	適性確認、面接の結果及び 提出書類を総合して判定する	学力試験、面接の結果及び 提出書類を総合して判定する
35,000円	35,000円	35,000円
		2年次に編入

平成20年度 前期行事予定
〈学部〉

- 4.3 (木) 第93回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)
 4.4 (金) 入学式(学部・大学院)
 4.7 (月) 新入生ガイダンス
 4.8 (火) 校医講演・新入生健康診断・アドバイザー面談
 前期授業開始(2年次生～4年次生)
 4.9 (水) 健康診断(新入生以外の学生・職員男子)
 前期授業開始(1年次生)
 4.10 (木) 健康診断(新入生以外の学生・職員女子)
 4.14 (月) 健康診断(新入生以外の学生)
 前期選択科目履修届提出締切(2～3年次生)
 午後3時(教務課)
 4.15 (火) 前期選択科目履修届提出締切(1年次生)
 午後3時(教務課)
 5.9 (金) 創立記念日(休業)
 5.13 (火) 薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
 5.16 (金) 新入生歓迎会(五月祭)[午後臨時休講]
 6.6 (金) 前期授業終了(4年次生)
 6.7 (土) 学友会球技大会
 6.12 (木)
 } 前期定期試験(4年次生)
 6.17 (火)
 6.18 (水) 前期定期試験(4年次生) 欠席届提出締切
 午後1時(教務課)
 6.30 (月) 平成21年度大学院修士課程推薦入学試験
 7.8 (火) 平成21年度大学院修士課程推薦入学試験合格者発表
 7.16 (水) 1年次火曜日授業(午前)・1～3年次金曜日
 授業(午後)振替日、前期授業終了
 (1～3年次生)
 7.17 (木) 前期授業予備日
 7.18 (金)
 } 前期定期試験(1～3年次生)
 7.31 (木)
 8.1 (金) 前期定期試験(1～3年次生) 欠席届提出
 締切 午後1時(教務課)
 8.20 (水) 平成21年度大学院修士課程一般入学試験
 8.25 (月) 前期再試験受験者発表(4年次生)
 8.28 (木) 前期再試験受験者発表(1～3年次生)
 8.29 (金) 平成21年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
 9.1 (月)
 } 前期再試験(4年次生・1～4年次全科目)
 9月6日(土)を含む
 9.11 (木)
 9.2 (火)
 } 前期再試験(1～3年次生) 9月6日(土)
 を含む
 9.11 (木)
 9.16 (火) 後期授業開始(1～3年次生)
 キャリアサポートガイダンス「学内企業セミナーⅠ(研究・臨床開発職等)」(大学院
 1年次生他)
 9.22 (月) 特別再試験受験者発表(4年次生)

平成20年度 前期行事予定
〈大学院〉

- 4.4 (金) 入学式
 4.9 (水) 健康診断(男子)
 4.10 (木) 健康診断(女子)
 4.11 (金) 前期(前半)特論開始
 4.14 (月) 健康診断
 4.18 (金) 前期特論選択科目履修届提出締切 午後3時
 (教務課)
 5.9 (金) 創立記念日(休業)
 6.2 (月) 臨床実務研修報告会
 6.4 (水) 前期(後半)特論開始
 6.16 (月)
 } 平成21年度修士課程推薦入学試験出願受付
 6.20 (金)
 6.30 (月) 平成21年度修士課程推薦入学試験
 7.8 (火) 平成21年度修士課程推薦入学試験合格者発表
 7.15 (火)
 } 平成21年度修士課程一般入学試験出願受付
 7.25 (金)
 7.18 (金) 前期特論終了
 8.20 (水) 平成21年度修士課程一般入学試験
 8.29 (金) 平成21年度修士課程一般入学試験合格者発表
 9.16 (火) キャリアサポートガイダンス「学内企業セ
 ミナーⅠ(研究・臨床開発職等)」

学位授与

[博士]

博士(薬学)男子1名 女子1名 合計2名
 (平成20年3月15日付)

論博第51号 博士(薬学) 藤井 俊秀
 虚血性急性腎不全の発症における腎交感神経系の
 の役割に関する研究
 (平成20年3月15日付)

論博第52号 博士(薬学) 佐藤 卓史
 ヒト気管支肺胞洗浄液中の液性成分の分析法
 の開発と病態解析への応用
 (平成20年3月15日付)

論博第53号 博士(薬学) 齋藤 誠
 生化学検査値を指標とした循環器系薬剤投与
 の最適化に関する研究
 (平成20年3月15日付)

[修士]

修士(薬学)男子28名 女子32名 合計60名
 (平成20年3月15日付)

[学士]

学士(薬学)薬学科131名 生命薬学科131名
 男子95名 女子167名 合計262名
 (平成20年3月15日付)

平成19年度 大学院修士課程、博士課程修了者 修士論文題目

氏名	専攻分野	修士論文題目
今西 美紗	分析化学	EGFR-TK分子イメージング薬剤によるゲフィチニブの薬効予測に関する基礎的検討
岩立 和真	臨床薬学	高糖濃度下での線維芽細胞の糖代謝: thiamineがPDH活性に及ぼす影響
江頭 成	生物科学	海洋細菌 <i>Pseudoalteromonas piscicida</i> O-7株由来 <i>pilA</i> 遺伝子の解析
大川 聡子	分析化学	体内放射能動態の制御を目的とした新規シグマリガンドのSPECT用薬剤としての基礎的評価
大木 正伸	臨床薬学	ヒスタミンの蛍光検出法の開発に関する研究
大熊 慎也	薬理学	培養血管内皮細胞における一酸化窒素およびエンドセリン-1産生に対するラロキシフェンの影響とその作用機序
金井 泰介	分析化学	p53安定高発現細胞株を用いた新規白金錯体によるアポトーシス誘導機構の解明
兼松 美和*	臨床薬学	高糖濃度条件下における培養心線維芽細胞のコラーゲン遺伝子発現
木岡千佐加	有機薬科学	(3S)-2,5-Diethoxy-3,6-dihydro-3-isopropyl-6-methylthio-pyrazine の合成と親電子剤との反応
北村 朋子*	薬理学	【基礎的研究】 Etoposideの副作用発現に及ぼすmorphineの影響 【臨床的研究】 生体肝移植症例における抗てんかん薬クロバザムの体内動態に関する臨床的検討
木村 麻紀	臨床薬学	シホモγリノレン酸 (DGLA) による抗動脈硬化作用
小坂井一考	生物科学	<i>Vibrio vulnificus</i> M2799株の鉄欠乏条件下におけるプロテオーム解析
近藤 弘美	薬理学	インスリンの血糖低下効果に対する降圧剤セリプロロールの影響
酒井 隆浩*	衛生薬学	マクロファージによるTリンパ腫細胞株EL-4の細胞障害性に関する研究
阪上久美子*	臨床薬学	ヒト癌細胞におけるGABAシステムの役割に関する研究
阪本 孝幸	薬用資源学	ピフラボノイドAmentoflavoneが脳卒中易発症性高血圧自然発症ラットの血圧ならびに脂質代謝機構に及ぼす影響
佐久間 聡	生物科学	アオダイショウ由来新規I型PLAのクローニング
三馬久美	臨床薬学	α-プロモフェニルフルオロンの分析化学への利用に関する研究
白川 久志	臨床薬学	チアミンのSTZ誘発糖尿病ラット心病変に与える影響
菅原 裕記	生物物理化学	ヘテロクロマチン関連タンパク質HP1-BP74 H1 like domainの立体構造解析
杉野 洋子	薬理学	虚血性急性腎不全に及ぼす損傷制限の影響
田中 景子*	臨床薬学	基礎的研究: チアミン及び関連化合物の高感度分析法の開発に関する研究 臨床的研究: 京都医療センターにおけるNST活動の報告
田中 早織	臨床薬学	イリノテカンとビリルビンとの相互作用に関する検討 -ラット <i>in vivo</i> 実験と肝灌流実験-
田中 裕介	生物科学	日和見感染菌 <i>Acinetobacter baumannii</i> ATCC19606株の細胞壁合成に関する遺伝子のクローニングおよび遺伝子欠損株の作製
谷田いずみ	薬理学	モノクローリン誘発性肺高血圧ラットに対するラロキシフェンの影響
玉木 理衣	衛生薬学	ラット腎メサングウム細胞におけるToll-like receptor 9を介した炎症応答
田和 正志	薬理学	心虚血再灌流後の機能障害とノルエピネフリン過剰放出における外因性ビッグエンドセリン-1の影響
堤 雄洋	分析化学	シグマレセプターを標的とする癌診断用 ^{99m} Tc標識低分子イメージング薬剤の合成
手島 礼子	衛生薬学	マクロファージ系細胞株WEHI-3細胞とその変異株SF-9細胞のLPSおよび細菌由来DNAに対する応答性
内藤 雅人	臨床薬学	α-カルボキシフェニルフルオロンの分析化学への利用並びに効率的な分析デザインの探索研究
中川真智子	臨床薬学	Lipopolysaccharideが及ぼすCYP3A2への影響
西岡 由紀	衛生薬学	3T3-L1前駆脂肪細胞の成熟脂肪細胞への分化に対する脂質関連物質の影響
西川 顕治	衛生薬学	内分泌攪乱物質の脂肪細胞分化促進における構造活性相関とそのメカニズムの解析
西澤 弘恵	分析化学	制癌活性を有する陽電荷白金錯体とDNAとの相互作用の解析
西村詩央里	衛生薬学	食品および生薬中の水銀に関する研究
西本 千秋	薬理学	microemulsionの組成が難溶性薬物の皮膚透過性に及ぼす影響に関する研究
服部 正幹	生物物理化学	Tauタンパク質微小管結合部位(MBD)の凝集阻害物質の検索と阻害機構の解明について
濱畑有記美*	薬理学	フラノクマリン類含有漢方製剤が小腸P-glycoprotein活性に及ぼす影響に関する研究
原 小百合	臨床薬学	レゾルシノールとの反応を利用する生体関連化合物の蛍光分析法の開発研究
平野 文康	生物科学	ロイシンリッチα ₂ -グリコプロテイン(LRG)に関する研究
廣岡 輝子*	臨床薬学	非アルコール性脂肪肝炎の臨床的検討
藤井貴和子*	薬理学	セサミンの抗高血圧作用: 利尿薬との併用効果について
藤田 淳子	衛生薬学	活性塩素種ならびに活性硫黄種による生体内活性酸素産生調節に関する研究
堀内 俊規	臨床薬学	心不全に対するエリスロポエチンの有効性の検討
前田真由子	臨床薬学	ノニル酸ワニルアミドの発毛効果に関する検討
樹井友梨奈	臨床薬学	色素-金属錯体を用いる尿タンパク質測定法に関する研究
松岡恵美子	薬理学	ビタミンB ₁₂ の体内動態における日リズムと体温リズムへの影響
松田 雅史*	薬理学	NST活動における薬剤師の役割 -消化器疾患患者における血中ビタミンB ₁₂ 濃度の検討-
丸野 孝浩	生物物理化学	合理的創薬を目指した核内受容体LRH-1とリガンドの相互作用解析
三木 春奈*	臨床薬学	嚢胞性線維症におけるcurcuminとgenisteinの作用について
水口 由章	生物科学	<i>Vibrio vulnificus</i> M2799株の鉄欠乏ストレスに関するタンパク質の遺伝子欠損株の作製
水野 敦雄	生物物理化学	ヒト由来タンパク質合成開始因子eIF4Eに対する内因性制御因子4EBP2の相互作用研究~eIF4Eとの結合に影響を及ぼす4EBP2の新規結合領域の解明~
光尾恵理子	生物科学	<i>Vibrio vulnificus</i> の病原性発現メカニズムの解析
美馬 将司	生物物理化学	Na ⁺ /Ca ²⁺ 交換体(NCX1)選択的スプライシング領域の機能に関する構造化学的研究 ~NCX1アイソフォームの臓器特異的発現の意義の解明に向けて~
耳野由賀里	生物科学	<i>Bacillus cereus</i> 菌由来スフィンゴミエリナーゼの精製と、そのベシクル状基質との相互作用
森岡 秀彰	生物物理化学	好熱性放線菌 <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520株由来キシロオリゴ糖輸送に関わるABC transporterの立体構造解明 ~糖結合タンパク質BxlEの構造解析とβ-xyloridase(BxlA)の結晶化~
守田 淳哉	臨床薬学	JM-1232(-)のラット末梢血管に対する反応性の検討
森長 和裕	衛生薬学	初代培養系を用いた肝細胞核DNAの酸化ならびに修復に影響を及ぼす因子に関する研究
米山 弘樹	有機薬科学	新規ヒスタミンH ₂ アンタゴニストを目指したS-アルキル-N-アルキルイソチオウレア合成法の開発
渡邊 麗	臨床薬学	JM-1232(-) Guinea pigの心臓に与える影響-

*印は、臨床薬学コース

博士課程

高山 淳二	薬理学	虚血性急性腎不全における性差発現に関する研究
津倉 由里	臨床薬学	Capsaicinの生体に及ぼす影響 -CapsaicinのCaco-2細胞に及ぼす影響とエンドトキシンショックモデルマウスの生存率に及ぼす影響-

学生課

○平成20年度 学友会執行委員会

- 執行委員長 矢野 睦美 (グループAPO薬学研究部)
- 副執行委員長 濱島 知博 (硬式野球部)
- 総務局長 沼 万梨恵 (アルペンスポーツクラブ)
- 厚生局長 那波みゆき (柔道部)
- 広報渉外局長 金川真希子 (漢法医学研究部)
- 体育局長 長瀬 隆久 (有志)
- 文化局長 篠田 典子 (フィールドウォーカーズ部)

○平成20年度 大薬祭実行委員会

- 実行委員長 中居 寛 (旅行写真部)
- 副実行委員長 角野 友香 (旅行写真部)
- 総務部長 沼 万梨恵 (アルペンスポーツクラブ)
- イベント部長 河添 咲紀 (ウィンターシュプール)
- リサイクル部長 大西 都美 (漢法医学研究部)
- 装飾部長 中野 真美 (茶道部)
- 渉外部長 八木 拓郎 (旅行写真部)
- 渉内部長 森川 祥彦 (コーラス部)

○大薬祭「秋桜」が開催されます

本年度の大薬祭は、「秋桜」をテーマに、平成20年10月31日(金)～11月2日(日)の日程で開催されます。当日は、文化系クラブの発表会を中心に、大薬祭の定番となっている「薔薇祭」や、にぎやかな模擬店など様々なイベントが行われる予定です。学生達の楽しい企画にご期待ください。

平成20年度 胸部X線受診状況 (間接撮影) 4/7~10、14、17

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計	職員
男	142 147	70 141	65 142	108 124	41 42	25 25	/	/	1 3	452 624	52 76
女	219 224	74 194	69 172	187 208	42 42	28 30	0 1	/	/	619 871	18 31
計	361 371	144 335	134 314	295 332	83 84	53 55	0 1	/	1 3	1071 1495	70 107
受診率	97.3% (97.5)	43.0% (38.6)	42.7% (80.1)	83.9% (85.8)	98.8% (98.3)	96.4% (83.6)	0% (-)	- (0)	33.3% (75.0)	71.6% (76.6)	65.4% (64.6)

< > 内平成19年度

*結核予防法改正に伴い、「胸部X-P撮影」は学部・大学院共新入生のみ必須受診項目、他の学年は選択受診項目に変更。

平成20年度 学生定期健康診断受診状況 (全項目受診者) 4/8、9、10、14

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計
男	141 147	98 141	79 142	108 124	41 42	25 25	/	/	1 3	493 624
女	219 224	104 194	79 172	183 208	42 42	28 30	0 1	/	/	655 871
計	360 371	202 335	158 314	291 332	83 84	53 55	0 1	/	1 3	1148 1495
受診率	97.0% (98.1)	60.3% (55.9)	50.3% (84.6)	87.7% (85.2)	98.8% (98.3)	96.4% (86.9)	0% (-)	- (0)	33.3% (75.0)	76.8% (81.7)

< > 内平成19年度

*結核予防法改正に伴い、「胸部X-P撮影」は学部・大学院共新入生のみ必須受診項目、他の学年は選択受診項目に変更。

平成19年度 健康管理支援室利用状況 (H19. 4. 1~H20. 3. 31)

月	利用者別			利用内容別						計
	学生	職員	計	外科系	内科系	健康指導・相談	休養	転送	証明	
4	48	8	56	10	24	10	10	2	0	56
5	259	11	270	27	38	93	24	1	87	270
6	354	12	366	40	34	237	23	1	31	366
7	311	12	323	16	13	165	10	0	119	323
8	46	5	51	5	6	1	2	0	37	51
9	67	7	74	18	19	6	8	0	23	74
10	130	10	140	23	37	29	14	1	36	140
11	86	19	105	25	39	3	19	0	19	105
12	46	9	55	7	17	1	9	0	21	55
1	51	9	60	11	19	14	5	0	11	60
2	33	21	54	9	15	13	6	0	11	54
3	18	16	34	11	9	4	1	0	9	34
計	1449 <1812>	139 <145>	1588 <1957>	202 <204>	270 <345>	576 <1248>	131 <155>	5 <5>	404 < / >	1588 <1957>

「外科系」はガーゼ交換、湿布交換を含む。

< > 内は平成18年度

「健康指導・相談」は検尿、血圧測定、身長・体重測定等を含む。

「証明」は健康診断受診証明の作成・発行、H18年度は「健康指導・相談」の項目に含んでいた。

健康管理支援室からのお知らせ

AEDの設置場所



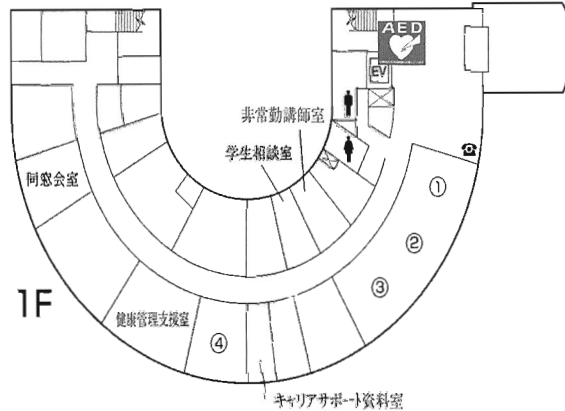
『ハートに稲妻』のマーク

- ★本部・図書館棟 1F
- ★講義・実習棟 1F
- ★体育館 1F
- ★研究棟 1F

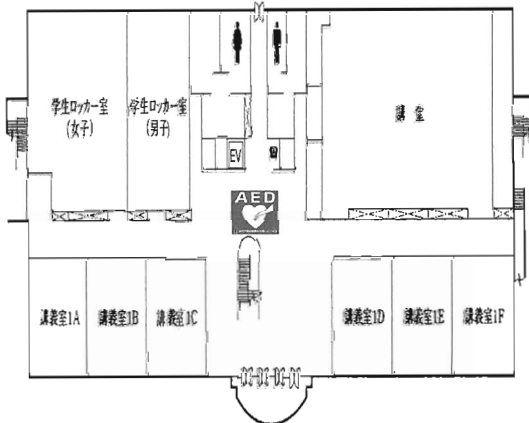
★ AEDは誰でも使えます。音声で指示し、電気ショックが必要か否かを判断します。

設置場所の確認と記憶を!

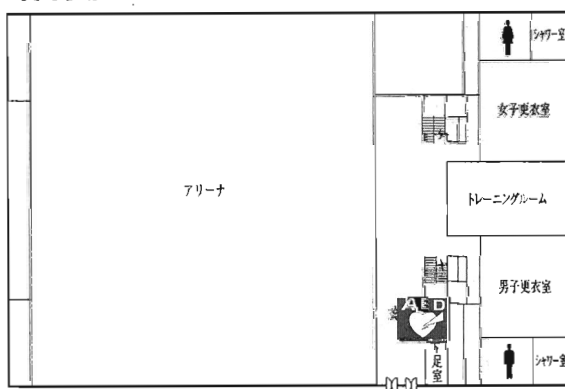
本部・図書館棟 1F



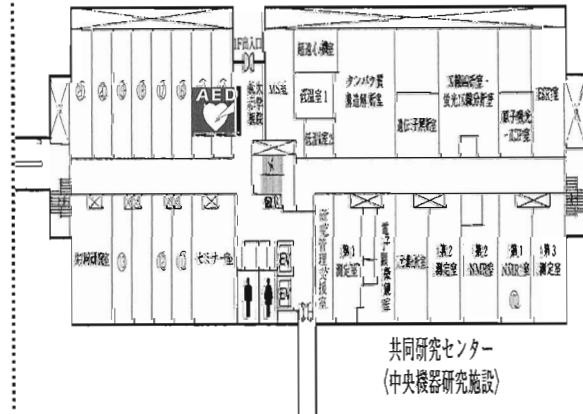
講義・実習棟 1F



体育館 1F



研究棟 1F



職員の皆さん

☆2008年度より特定健康診査(満40歳から74歳の方は腹囲測定を追加)と特定保健指導が始まりました。これは医療改革の一環として、生活習慣病やその予備群を減らし医療費の適正化を図っていくものです。又、健診の受診率、保健指導の実施率等の増減が、医療保険者が財政負担する後期高齢者支援金の増減にも反映されます。

医療保険者の皆さんは健康診断を受診し『健康、生活習慣病の予防』に努めてください。

キャリアサポート課

キャリアサポート課では新年度より課長補佐を迎え質の向上を図っています。

平成19年度学部卒業生（55期生）、大学院博士前期（修士）課程修了者（32期生）に対して、進路・就職に関する職種及び企業選定をスムーズにするためのサポートを行ってきました。

1. キャリアサポートガイダンス 24回実施
2. 学内企業セミナー 3回実施
 - 1) 研究・医薬開発職関連企業（9月）- 24社参加
 - 2) 薬業関連企業（11月）- 45社参加
 - 3) 薬局・ドラッグストア（12月）- 49社参加
3. インターンシップの実施（8月）

	平成19年度
実施企業数	24
参加人数 (内、女子)	49 (29)

(参考)				
平成18年度	平成17年度	平成16年度	平成15年度	平成14年度
21	16	12	7	3
40 (28)	31 (22)	27 (17)	16 (15)	7 (5)

■「インターンシップ（MR他）」 ※体験報告発表会—パネルディスカッション—



■「学内企業セミナー」



〔大学院（研究職等）〕

■「就職内定者との懇談会」（4年次生からのアドバイス）



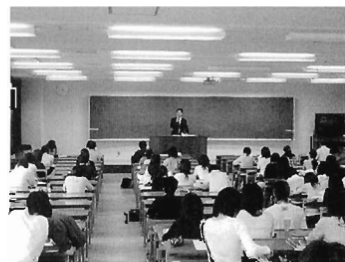
4. キャリアサポート課員による進路・就職等に関する個人面接の実施回数

	平成19年4月～平成20年3月		
	計	男	女
延べ回数 (内、大学院生)	1,193 (237)	352 (66)	841 (171)
学生数 (内、大学院生)	362 (60)	113 (23)	249 (37)

	平成18年4月～平成19年3月		
	計	男	女
延べ回数 (内、大学院生)	1,160 (190)	338 (75)	822 (115)
学生数 (内、大学院生)	341 (66)	101 (29)	240 (37)

キャリアサポート課員は学生個々の価値観にあった進路・就職先が決定できるよう、日々質の向上を図っています。平成19年度卒業生へのキャリアサポート業務（進路・就職指導支援）を振り返ってみますと、キャリアサポートガイダンスの充実は勿論ですが、学内企業セミナーも参加企業を増やし、OB・OGとの出会い、企業文化とのふれあい等が学生各自の進路決定のヒントとなっています。また、個人面接（相談）件数も職種を問わず年々増加しています。相談内容は進路先決定、企業選択方法、履歴書・エントリーシートの添削、模擬面接、大学院修了後の就職情報提供等多岐にわたっています。下記にキャリアサポート活動の現状を画像でまとめました。ご参照ください。

■「公務員対策講座」 全学年対象 年4回開催



■「学内企業セミナー」



〔3年次生（製薬企業等）〕

■「卒業生による職種紹介」（病院）



教員研究業績 (2007年)

(2007.1.1~12.31)

1. 研究学術論文

著 者	題 目	掲 載 誌
宇佐美吉英, 高岡伊三夫, 市川隼人, 堀部祐介, 富山俊輔, 大塚三紗子, 今西由美, 有本正生	First total synthesis of antitumor natural product (+)- and (-)-pericosine A: determination of absolute stereo structure	J. Org. Chem., 72, 6127-6134 (2007)
宇佐美吉英, 上田恭子	Stereoselective syntheses of diastereomers of antitumor natural product pericosine A from (-)-quinic acid	SYNTHESIS, 3219-3225 (2007)
浦田秀仁, 野村 芳, 和田俊一, 赤木昌夫	Fluorescent-Labeled Single-Strand ATP Aptamer DNA: Chemo- and Enantio-Selectivity in Sensing Adenosine	Biochem. Biophys. Res. Commun., 60(2), 459-463 (2007)
和田俊一, 田中麗子	A Functionalized 20-Residue Peptaibol Derivative for Nucleic Acid Delivery	Chem & Biodiv., 4(5), 991-997 (2007)
和田俊一, 保井由美子, 人見哲平, 田中麗子	Structures and Radical Scavenging Activities of Phenolic Constituents from the Bark of <i>Picea jezoensis</i> Carr. var. <i>jezoensis</i>	J. Nat. Prod., 70, 1605-1610 (2007)
春沢信哉, 川村 誠, 荒木理佐, 谷口隆亮, 米山弘樹, 栗原拓史, 他	Synthesis of novel 4(5)-(5-aminotetrahydropyran-2-yl)imidazole derivatives and their <i>in vivo</i> release of neuronal histamine measured by brain microdialysis	Chem. Pharm. Bull., 55, 1245-1253 (2007)
春沢信哉, 荒木理佐, 他	RNA folding and the origins of catalytic activity in the hairpin ribozyme	Blood Cells, Molecules, and Diseases, 38, 8-14 (2007)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Anti-tumor agents 255: Novel glycyrrhetic acid-dehydrozingerone conjugates as cytotoxic agents	Bioorg. Med. Chem., 15, 6193-6199 (2007)
岡田祐貴子, 馬場きみ江, 他	Beneficial effect of xanthoangelol, a chalcone compound from <i>Angelica keiskei</i> , on lipid metabolism in stroke-prone spontaneously hypertensive rats	Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology, 34, 238-243 (2007)
笹井教子, 馬場きみ江, 他	Effects of osthol on blood pressure and lipid metabolism in stroke-prone spontaneously hypertensive rats	Journal of Ethnopharmacology, 112, 26-31 (2007)
芝野真喜雄, 他	Eremophilane Sesquiterpenes from <i>Ligularia macrophylla</i>	J.Nat.Prod., 70, 1259-1262 (2007)
芝野真喜雄, 他	Filiasparosides A-D, cytotoxic steroidal saponins from the roots of <i>Asparagus filicinus</i>	J.Nat.Prod., 70, 1263-1267 (2007)
芝野真喜雄, 他	Separation and characterization of active flavonolignans of <i>Silybum marianum</i> by liquid chromatography connected with hybrid ion-trap and time-of-flight mass spectrometry (LC-MS/IT-TOF)	J.Nat.Prod., 70, 1424-1428 (2007)
芝野真喜雄, 他	Cancer preventive agents. 7. Antitumor-promoting effects of seven active flavonolignans from milk thistle (<i>Silybum marianum</i>) on epstein-barr virus activation	Pharmaceutical Biology, 45(10) 735-738 (2007)
芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	甘草の国内生産を目指して(1) ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> Fisher) の筒栽培について	生薬学雑誌, 61(2), 89-92 (2007)
中田智子, 山田剛司, 大石宏文, 和田俊一, 田中麗子, 他	Structure determination of inonotsuoxides A and B <i>in vivo</i> anti-tumor promoting activity of inotodiol from the sclerotia of <i>Inonotus obliquus</i>	Bioorg. Med. Chem., 15, 257-264 (2007)
田中麗子, 西澤 学, 大津博則, 他	Synthesis of DL-standishinal and its related compounds for the studies on structure-activity relationship of inhibitory activity against aromatase	Bioorg. Med. Chem., 15, 2736-2748 (2007)
西澤 学, 大津博則, 田中麗子, 他	Oral administration of (11E)-13-oxo-15,16-dinorlabda-8(20),11-dien-19-oic acid strongly reduce photocarcinogenesis in mouse skin exposed to UV-B irradiation	Chem. Biodiver., 4, 1003-1007 (2007)
田路さやか, 山田剛司, 尹 康子, 和田俊一, 宇佐美吉英, 田中麗子, 他	Three new lanostane triterpenoids from <i>Inonotus obliquus</i>	Helv. Chim. Acta, 90 (11), 2047-2057 (2007)
山田剛司, 箕浦克彦, 田中麗子, 沼田 敦	Cell-adhesion inhibitors produced by a sea hare-derived <i>Periconia</i> sp. III Absolute stereostructures of peribysin J and macrosphelide M	J. Antibiotics, 60 (6), 370-375 (2007)
天形太郎, 田中 誠, 山田剛司, 土井光暢, 箕浦克彦, 大石宏文, 沼田 敦, 他	Variation in cytostatic constituents of a sponge-derived <i>Gymnascella dankaliensis</i> by manipulating the carbon source	J. Nat. Prod., 70 (11), 1731-1740 (2007)
山田剛司, 入谷雅士, 大石宏文, 田中佳代, 箕浦克彦, 土井光暢, 沼田 敦	Pericosines, antitumor metabolites from the sea hare-derived fungus <i>Periconia byssoides</i> . Structure and biological activities	Org. Biomol. Chem., 5, 3979-3986 (2007)

著 者	題 目	掲 載 誌
山田剛司, 今井英詞, 中辻寿代, 沼田 敦, 田中麗子	Cephalimysin A, a potent cytotoxic metabolite from an <i>Aspergillus</i> species seprated from a marine fish	Tetrahedron Lett., 48, 6294-6296 (2007)
水島史絵, 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Marked difference between self-aggregations of first and fourth repeat peptides on tau microtubule-binding domain in acidic solution	J.Biochem., 142, 49-54 (2007)
清家希穂, 佐藤純治, 友尾幸司, 石田寿昌, 池西貞雄, 宮本勝城, 辻坊 裕	Crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of BxlE, a xylobiose transporter from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520	Acta Cryst., F63, 560-562 (2007)
安孫子美美, 友尾幸司, 水野敦雄, 森野重信, 石田寿昌	Binding preference of eIF4E for 4E-binding protein isoform and function of eIF4E N-terminal flexible region for interaction, studied by SPR analysis	Biochem. Biophys. Res. Commun., 355, 667-672 (2007)
尹 康子, 石田寿昌	Novel 1D hydrophobic pore formation by C-terminal amide-controlled self-assembly of Leu-Leu-Leu-NH ₂ in crystal	Chem. Lett., 36, 342-343 (2007)
大石宏文, 石田寿昌, 他	Inclusion effect and structural basis of cyclodextrins for increased extraction of medicinal alkaloids from natural medicines	Chem.Pharm.Bull., 55, 729-733 (2007)
彦惣理恵, 倉林泰子, 皇徳 薫, 堂本路子, 水島史絵, 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌	Effect of DNA on filament formation of tau microtubule-binding domain: Structural dependence of DNA	Chem.Pharm.Bull., 55, 1030-1033 (2007)
小林祐次, 他	Crystallization of human nicotinamide phosphoribosyltransferase	Acta Crystallograph Sect. F Struct. Biol. Cryst. Commun., 63, 375-377 (2007)
西村光広, 小林祐次, 他	Purification, crystallization and preliminary X-ray diffraction study of human ribosomal protein L10 core domain	Acta Crystallograph Sect. F Struct. Biol. Cryst. Commun., 63, 950-952 (2007)
小林祐次, 他	NMR structure of a human homologous methuselah gene receptor peptide	Biochem Biophys Res Commun., 352, 17-20 (2007)
西 義則, 小林祐次, 他	Role of Asn(2) and Glu(7) residues in the oxidative folding and on the conformation of the N-terminal loop of apamin	Biopolymers, 86, 447-462 (2007)
小林祐次, 他	Roles of a short connecting disulfide bond in the stability and function of psychrophilic shewanella violacea cytochrome C ₃	Extremophiles, 6, 797-807 (2007)
西 義則, 小林祐次, 他	Characterization and crystallization of an IscU-type scaffold protein with bound [2Fe-2S] cluster from the hyperthermophile, aquifex aeolicus	J. Biochem., 142, 577-586 (2007)
小林祐次, 他	Tautomerism of histidine 64 associated with proton transfer in catalysis of carbonic anhydrase	J. Biol. Chem., 282, 9646-9656 (2007)
小林祐次, 他	NMR solution structure of lipocalin-type prostaglandin D synthase: Evidence for partial overlapping of catalytic pocket and retinoic acid-binding pocket within the central cavity	J. Biol. Chem., 282, 31373-31379 (2007)
小林祐次, 他	Crystal structure of <i>Pyrococcus horikoshii</i> PPC Protein at 1.60 Å Resolution	Proteins, 67, 505-507 (2007)
土井光暢, 一宮祐子, 浅野晶子	β -Turn structure of a tripeptide N-(tert-butoxycarbonyl)-Phe-D-Pro-Gly methyl ester monohydrate	Acta Cryst., E63, o4691(2007)
土井光暢, 他	Controlling 3 ₁₀ -helix and α -helix of short peptides in the solid state	Chem. Pharm. Bull., 55, 840-842 (2007)
佐藤卓史, 齊藤睦弘, 千熊正彦, 他	Fluorimetric determination of trace amounts of albumin in bronchoalveolar lavage fluid with eriochrome cyanine R	Biol. Pharm. Bull., 30, 1187-1190 (2007)
古川篤史, 喜多孝蔵, 豊元 操, 藤井 忍, 井上晴嗣, 林 恭三, 池田 潔	Production of nerve growth factor enhanced in cultured mouse astrocytes by glycerophospholipids, sphingolipids, and their related compounds	Mol Cell Biochem, 305, 27-34 (2007)
宮本勝城, 辻坊 裕, 他	The <i>dasABC</i> gene cluster, adjacent to <i>dasR</i> , encodes a novel ABC transporter for the uptake of <i>N,N</i> -diacetylchitobiose in <i>Streptomyces coelicolor</i> A3(2)	Appl. Environ. Microbiol., 73, 3000-3008 (2007)
宮本勝城, 奥西美奈, 坂井栄二, 土屋孝弘, 辻坊 裕, 他	The regulator CdsS/CdsR two-component system modulates expression of genes involved in chitin degradation of <i>Pseudoalteromonas piscicida</i> strain O-7	Arch. Microbiol., 188, 619-628 (2007)
宮本勝城, 辻坊 裕, 他	Structure-activity relationship and biological property of cortistatins, anti-angiogenic spongean steroidal alkaloids.	Bioorg. Med. Chem., 15, 6758-6762 (2007)
土屋孝弘, 光尾恵理子, 林菜穂子, 疋田裕子, 宮本勝城, 辻坊 裕, 他	<i>Vibrio vulnificus</i> damages macrophages during the early phase of infection.	Infect. Immun., 75, 4592-4596 (2007)

著者	題目	掲載誌
土屋孝弘, 宮本勝城, 辻坊 裕, 他	海洋環境より分離された糸状菌培養液の美白素材への応用研究	日本化粧品技術者会誌, 41, 254-261 (2007)
山沖留美, 木村捷二郎, 他	Detection of electron beam irradiated crude drugs by electron spin resonance (ESR)	RADIOISOTOPES, 56, 163-172 (2007)
津倉由里, 森 摩耶, 廣谷芳彦, 池田健二, 天野富美夫, 加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	Effects of capsaicin on cellular damage and monolayer permeability in human intestinal Caco-2 cells	Biol. Pharm. Bull., 30, 1982-1986 (2007)
天野富美夫, 他	Effects of polyunsaturated fatty acids on calcium response and degranulation from RBL-2H3 cells	International Immunopharmacol., 7, 205-210 (2007)
藤森 功, 他	Cooperative activation of lipocalin-type prostaglandin D synthase gene expression by activator protein-2 β in proximal promoter and upstream stimulatory factor 1 within intron 4 in human brain-derived TE671 cells	Gene, 397, 143-152 (2007)
藤森 功, 小林祐次, 他	NMR solution structure of lipocalin-type prostaglandin D synthase: Evidence for partial overlapping of catalytic pocket and retinoic acid-binding pocket within the central cavity	J. Biol. Chem., 282, 31373-31379 (2007)
藤森 功, 他	A novel pathway to enhance adipocyte differentiation of 3T3-L1 cells by up-regulation of lipocalin-type prostaglandin D synthase mediated by liver X receptor-activated sterol regulatory element binding protein-1c	J. Biol. Chem., 282, 18458-18466 (2007)
藤森 功, 他	Increased production of lipocalin-type prostaglandin D synthase in leptomeningeal cells through the contact with astrocytes	Neurosci. Lett., 423, 133-137 (2007)
大野行弘, 他	Inhibition of astroglial Kir4.1 channels by selective serotonin reuptake inhibitors	Brain Res., 1178, 44-51 (2007)
高山淳二, 高岡昌徳, 杉野洋子, 山本祐司, 大喜多守, 松村靖夫	Sex difference in ischemic acute renal failure in rats: Approach by proteomic analysis	Biol. Pharm. Bull., 30, 1905-1912 (2007)
川西秀明, 長谷川洋一, 中野大介, 大喜多守, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Involvement of the endothelin ET _B receptor in gender differences in deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertension	Clin. Exp. Pharmacol., Physiol. 34, 280-285 (2007)
藤井俊秀, 杉浦孝宏, 大喜多守, 小淵修平, 高岡昌徳, 松村靖夫	Selective antagonism of the postsynaptic α 1-adrenoceptor is protective against ischemic acute	Eur. J. Pharmacol., 574, 185-191 (2007)
山下知佳, 田澤尚子, 郭 哲俊, 中野大介, 松村靖夫, 他	Angiotensin II receptor blocker reduces oxidative stress and attenuates hypoxia-induced left ventricular remodeling in apolipoprotein E-knockout mice	Hypertens. Res., 30, 1219-1230 (2007)
山下潤二, 大喜多守, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Role of Na ⁺ /H ⁺ exchanger in the pathogenesis of ischemic acute renal failure in mice	J. Cardiovasc. Pharmacol., 49, 154-160 (2007)
中野大介, 石井史絵, 藤井貴和子, 松村靖夫, 他	Effects of dietary arachidonic acid supplementation on age-related changes in endothelium-dependent vascular responses	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 53, 75-81 (2007)
廣谷芳彦, 山本一紀, 富士仁見, 西堀素子, 梅田高士, 田中一彦	Effects of capsaicin on the pharmacokinetics of digoxin, phenytoin, and theophylline in rats	Jap. J. TDM, 24, 23-28 (2007)
加藤隆児, 田中一彦, 他	Effect of lactobacillus casei on the absorption of nifedipine from rat small intestine	Drug Metab. Pharmacokinet., 22, 96-102 (2007)
森口 純, 加藤隆児, 中川真智子, 廣谷芳彦, 井尻好雄, 田中一彦	Effects of lipopolysaccharide on intestinal P-glycoprotein expression and activity	Eur. J. Pharmacol., 565, 220-224 (2007)
稲嶋佐知子, 田中一彦, 他	Inhibition of matrix metalloproteinase-9 activity by lisinopril after myocardial infarction in hamsters	Eur. J. Pharmacol., 568, 231-233 (2007)
津倉由里, 森 摩耶, 廣谷芳彦, 天野富美夫, 加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	Effects of capsaicin on cellular damage and monolayer permeability in human intestinal Caco-2 cells	Biol. Pharm. Bull., 30, 1982-1986 (2007)
稲嶋佐知子, 田中一彦, 他	Significance of matrix metalloproteinase-9 in cardiac dysfunction during the very acute phase after myocardial infarction in hamsters	Eur. J. Pharmacol., 572, 57-60 (2007)
稲嶋佐知子, 田中一彦, 他	Molecular mechanism of imidapril for cardiovascular protection via inhibition of MMP-9	J. Molecul. Cell. Cardiol., 43, 670-676 (2007)
津倉由里, 高畑優子, 仲里華子, 加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	Capsaicin improves survival rate in mice with lipopolysaccharide-induced endotoxin shock	Circulation Control, 28, 307-313 (2007)

著 者	題 目	掲 載 誌
木村麻紀, 田中一彦, 他	Inhibition of vascular angiotensin-converting enzyme by telmisartan via the peroxisome proliferator-activated receptor γ agonistic property in rats	Hypertens. Res., 30, 1231-1237 (2007)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Sevelamer Hydrochloride 服用前後における高リン血症に対する薬効評価	日病薬誌, 43, 649-652 (2007)
田中孝生, 他	Thiamine attenuates the hypertension and metabolic abnormalities in CD36-defective SHR: Uncoupling of glucose oxidation from cellular entry accompanied with enhanced protein O-GlcNAcylation in CD36 deficiency	Mol. Cell. Biochem., 299, 23-25 (2007)
山口敬子, 長谷川浩平, 神野伸一郎, 宮地加奈子, 臣永 宏, 藤田芳一	Spectrophotometric determination of uric acid based on fading of <i>o</i> -hydroxyhydroquinonephthalein - palladium(II) - hexadecyltrimethylammonium complex	Anal. Sci., 23, 223 - 226 (2007)
田部三沙, 藤本 剛, 中原良介, 山口敬子, 藤田芳一	Spectrophotometric determination of oxalate ion with <i>N,N'</i> -diethyl- <i>N,N'</i> -[[4,4'-dihydroxy-1,1'-binaphthalene]-3,3'-diyl]bisbenzamide and copper(II)	Anal. Sci., 23, 601 - 604 (2007)
宮地加奈子, 森山健三, 山口敬子, 臣永 宏, 神野伸一郎, 藤田芳一	Spectrophotometric determination of spermine and related compounds using <i>o</i> -hydroxyhydroquinonephthalein and manganese(II)	Anal. Sci., 23, 1103 - 1107 (2007)
清水久美代, 森田好美, 田中久美子, 神野伸一郎, 藤本 剛, 山口敬子, 藤田芳一	サリチルフルオロン, ジルコニウム (IV), フッ化物イオン間の呈色反応を用いるジルコニウム (IV) 及びフッ化物イオンの吸光度定量	分析化学, 56, 773 - 779 (2007)
内藤雅人, 中島寛人, 大木正伸, 神野伸一郎, 山口敬子, 藤田芳一	<i>o</i> -カルボキシフェニルフルオロン-銅 (II) との三元錯体生成に基づくインスリンの吸光度定量	分析化学, 56, 781 - 784 (2007)
山崎智香子, 臣永 宏, 三馬久美, 磯野里絵, 神野伸一郎, 山口敬子, 藤田芳一	<i>o</i> -スルホフェニルフルオロンと銅 (II) を用いるキニーネ及びその関連薬物の吸光度定量	分析化学, 56, 879 - 884 (2007)
荒川行生, 恩田光子, 他	Eye-concentrated distribution of dexamethasone carried by sugar-chain modified liposome in experimental autoimmune uveoretinitis mice	Biomed.Res., 28, 331-334 (2007)
恩田光子, 他	Factors influencing pharmacist job satisfaction in hospitals - observations based on comparison among professionals -	Jpn.J.Soc.Pharm., 25, 9-18 (2007)
恩田光子, 他	Contributions of pharmacists through the promotion of proper drug use	YAKUGAKU ZASSHI, 127, 1021-1025 (2007)
恩田光子, 荒川行生, 他	Effects of Hachimi-jio-gan (Ba-Wei-Di-Huag-Wan) on intestinal function in streptozotocin-induced diabetic rats	YAKUGAKU ZASSHI, 127, 1509-1513 (2007)
恩田光子, 他	病院薬剤師の疑義照会による結果に関する研究	病院管理 (Hospital Administration), 44, 345-352 (2007)
恩田光子, 他	DPCにおける薬剤師のクリニカルパスと医薬品マネジメントに関する調査研究	J.Jpn.Soc.Hosp.Pharm., 43, 1007-1010 (2007)
恩田光子, 兼松美和, 北村朋子, 酒井隆浩, 阪上久美子, 田中景子, 濱畑有記美, 廣岡輝子, 藤井貴和子, 松田雅史, 三木春奈, 真下博孝, 羽田理恵, 荒川行生	後発医薬品の生物学的同等性に関する情報提供のあり方 - 大学院生の附属薬局研修からの考察 -	YAKUGAKU ZASSHI, 127, 1159-1166 (2007)
恩田光子, 他	保険薬局における「患者参加型の安全風土」構築のための基礎的研究 - ミーティング報告書からの考察 -	YAKUGAKU ZASSHI, 127, 2075-2078 (2007)
土井 勝, 他	New parameterization in muon decay and the type of emitted neutrino.II	Prog. Theor. Phys., 118, 1069-1086 (2007)

2. 総説・解説

著 者	題 目	書名または掲載誌 (出版社)
馬場さみ江, 他	明日葉根の抗腫瘍作用	Food Style 21, 11, 44-45 (2007)
芝野真喜雄, 他	アメリカニンジン [®] の准野生栽培見聞記	薬用植物研究, 2, 41-46 (2007)
西 義則, 小林祐次, 他	コラーゲンの三本鎖構造の熱安定性に及ぼす水和の効果	熱測定, 34, 152-158 (2007)
千熊正彦	次世代抗がん性白金錯体の開発研究	金属, 77, 299-304 (2007)
天野富美夫	サルモネラの環境中における生残性と病原性発現機構との関連	J. Veterinary Med., 60, 589-590 (2007)
天野富美夫, 他	カンピロバクターの酸素ストレス下での生残	J. Veterinary Med., 60, 906-910 (2007)
藤森 功	肥満防止薬に道! 脂肪を蓄積させる酵素を確認	化学, 62, 73 (2007)

著 者	題 目	書名または掲載誌 (出版社)
佐久間寛, 坂本博匡, 西川顕治, 藤本陽子, 他	Life style-related diseases of the digestive system; endocrine disruptors stimulate lipid accumulation in target cells related to metabolic syndrome	J. Pharmacol. Sci., 105, 133-137 (2007)
中野大介, 松村靖夫, 他	SESAMIN: Antihypertensive effect and possible mechanisms	NUTRAfoods, 6, 5-13 (2007)
松村靖夫, 他	循環調節因子に関する最近の進歩	薬学雑誌, 127, 1317-1318 (2007)
大喜多守, 高岡昌徳, 松村靖夫	エンドセリンの産生調節と病態への関与	薬学雑誌, 127, 1319-1329 (2007)
井尻好雄, 加藤隆児, 田中一彦	副作用が疑われる患者への対応	薬事, 49, 841-846 (2007)
神野伸一郎	超分子化学がグリコバイオロジーを解明する	ファルマシア, 43, 58-59 (2007)

3. 著 書

著 者	題 目	出 版 社
市川隼人, 他	The Claisen rearrangement Aliphatic Claisen rearrangement	Wiley VCH (2007)
馬場きみ江, 他	薬用食品の開発 アスタバ含有カルコン類の構造と機能	シーエムシー出版 (2007)
石田寿昌	物理化学 (ベーシック薬学教科書シリーズ) 第8章 溶解現象 第9章 希薄溶液の束一的性質	化学同人 (2007)
友尾幸司	物理化学 (ベーシック薬学教科書シリーズ) 第10章 固体の性質	化学同人 (2007)
土屋孝弘, 他	Neuroimmunology Research Focus, Chapter VII. PU.1 is required for the activation of mouse embryonic stem cell-derived microglia	Nova science publishers, Inc (2007)
三野芳紀, 他	新訂生薬学 改訂第6版	南江堂 (2007)
藤森 功	Prostaglandin D2 synthase - A multitude of biological functions Structure and Regulation of lipocalin-type prostaglandin D synthase gene	Research Signpost (2007)
掛見正郎, 田中一彦, 西野隆雄	薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2007年版	じほう (2007)
掛見正郎, 他	薬剤師のための常用医薬品情報集 2007年版	廣川書店 (2007)
掛見正郎, 他	わかりやすい物理薬剤学 第4版	廣川書店 (2007)
松村靖夫	ファーマコセラピー 第20章 脳卒中	ブレーン出版 (2007)
藤田芳一, 他	早期体験学習ガイドブック	ネオメディカル (2007)
荒川行生, 他	感染制御ナーシングプラクティス	文光堂 (2007)
恩田光子, 他	医療・福祉系学生のための専門基礎科目	金芳堂 (2007)

4. 紀 要

著 者	題 目	掲 載 誌
春沢信哉, 藤原美穂代, 栗原拓史, 他	Mass determination of phosphoramidites: Effects of the metal ion in the matrix and applicability on FABMS	Bull. Osaka Univ. Pharm. Sci., 1, 107-112 (2007)
三野芳紀, 井尻章悟, 内田浩司, 氏田国恵, 安田正秀	植物シデロホアの一種ムギネ酸の鉄排泄活性	大阪薬科大学紀要, 1, 113-117 (2007)
三野芳紀	鉄欠乏大麦根からのムギネ酸分泌に及ぼす光の影響	大阪薬科大学紀要, 1, 119-124 (2007)
中野大介, 松村靖夫, 他	ゴマ由来成分の抗高血圧作用に関する研究	大阪薬科大学紀要, 1, 135-141 (2007)
幸田祐佳	Signal transmission molecules and ARF-related protein in the development of acute renal failure (ARF)	大阪薬科大学紀要, 1, 125-128 (2007)
永田 誠	数の幾何における短完全系列についてのある考察	大阪薬科大学紀要, 1, 25-31 (2007)

5. 特 許

出 願 者	題 目	特 許 番 号
田中麗子, 他	トリテルペン化合物、その製造方法及びそれを有効成分として含有する発癌プロモーション抑制組成物	特開 2007-064344 (2007)
天野富美夫, 他	感染症抑制剤	特願 2007-159664
天野富美夫, 他	免疫調節作用を有する組成物	特願 2007-267355

カリン *Pseudocydonia sinensis* (Thouin) SCHNEID. (*Chaenomeles sinensis* KOEHNE) は中国原産Rosaceae (バラ科) の落葉高木で、中国、日本、朝鮮半島、アメリカ、フランスなどの広域で庭木、盆栽として植栽されている。樹高は10mに達し、樹皮は緑褐色で鱗状にはげ落ち、雲紋状の後が残る。4～5月頃に淡紅色から紅色、5弁の花を頂端に単生するが、花付きはサクラなどに比べ多くなく、また新葉が少し出てから咲くので、あまり見栄えはしない。しかし、果実は西洋梨形をしており、10cmぐらいに大きくなり、秋に黄色の実をたくさん付けた姿は見事である。本学にも数本植栽されているが、温室付近のものは、藤田芳一先生の同窓生(18期生)が記念樹として植えたもので、毎年多くの実をつけている。ちなみに、そのクラス会の名称もカリンの会と称する。カリンの果実は熟すると芳香を放つが、堅くて、強い酸味と渋みがあり、生食には適さない。しかし煮て砂糖漬けにすると食べられる。また、ホワイトリカーにグラニュー糖といっしょに漬け込んで、半年以上寝かせて作るカリン酒(薬用酒)は飲みやすく、咳止めやのどの痛みを押さえ、また疲労回復などに効果がある。駅の売店などでも、よくカリンのど飴が売られているのを目にする。

カリンの果実を縦割りにして日干しにしたものが、生薬の木瓜^{もっか}で、鎮咳、去痰、疲労回復薬とする。ところが、中国では古くから木瓜は同じバラ科のボケ *Chaenomeles speciosa* (Sweet) NAKAIの果実であり、こむら返り、脚気、リウマチなどの治療に有効とされている。一方、カリンの果実は地方によっては光皮木瓜の名で使われてきたが、正式には^{めいさ}模檜とよばれて区別されている。模檜は神農本草経集注にも収載され、ほかに木李、海棠、土木瓜などの異名を持つ。成熟した果実を2～4個に縦割りにして、内側の表面を上に向けて日干しにしたものを

去痰、鎮咳、去風湿薬、止瀉薬に用いている。長期に服用すると肺結核に優れた効果があるとも言う。このように中国では、木瓜はボケの果実、模檜はカリンの果実と異なる植物を起原としており、使用方法も異なっている。カリンの果実はリンゴ酸、クエン酸、酒石酸などの有機酸のほか、しょ糖、トリテルペノイドサポニン、タンニン等を含むが、薬効に対する薬理的な実験報告はあまり見られず、ただ抗炎症作用についての報告がある。

カリンは材の木目がマメ科のシタン属(*Pterocarpus* sp.)のカリン類に似ていることから、この名が付けられたといわれる。唐木の花櫚(カリン)材はマメ科のシタン属のもので、カリンではない。カリンとよく混同される植物にマルメロ(*Cydonia oblonga* MILL.)がある。マルメロはイラン、トルキスタン地方原産

の落葉高木で寛永時代に長崎に渡来した。カリンとの相違点は、カリンが高木で成木になると樹皮が鱗状に剥がれるのに対して、マルメロは樹高がそれほどなく、樹皮がはがれないこと、またカリンには鋸歯があるのに対して、マルメロは無いこと、またマルメロの葉の裏には綿毛があることなどである。長野県諏訪地方ではカリンを販売しているが、これはマルメロの誤りである。マルメロの果実はカリンに比べ、柔らかく生食出来る点も異なるが、薬用酒として咳止め、去痰薬とすることは同じである。



カリンの花



カリンの果実

(薬用植物園長 馬場きみ江)

発行
大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1
TEL (072) 690-1019(入試・広報課)
FAX (072) 690-1018(")
URL <http://www.oups.ac.jp/>